

## 講師・支援研究者・協力者紹介

### 講師（番組担当）

#### 太田 満（おおたみつる）

北海道赤平市生まれ。天理大学外国語学部ロシア語学科卒業。外国語学士。  
旭川アイヌ語教室講師。ロシア語・ルーマニア語法廷通訳。  
北海道教育大学旭川校非常勤講師。ラジオ講座教科書校閲も担当。

### 支援研究者（教科書執筆担当）

#### 井筒 勝信（いづつかつのおぶ）

神奈川県横浜市生まれ。北海道大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士（文学）。  
北海道教育大学旭川校助教授。  
専門は機能主義・認知言語学に基づく西洋語・東亜語対照研究。

### 協力者

#### 文化指導・資料提供・録音協力（声の出演）

#### 川村シンリツ・エオリパック・アイヌ（兼一）

旭川市近文コタン生まれ。川村カ子トアイヌ記念館第三代目館長。  
1987年より旭川アイヌ語教室を主宰し、イオマンテを行うなど積極的に民族の精神と伝統・文化の保存と発展に努めている。祖父君はコタンコロクルで記念館初代館長のイタキシロマ翁。  
父君は測量技師としてもアイヌ文化伝承者としても著名な  
記念館第二代目館長川村カ子トゥカアイヌ翁。

#### 杉村 フサ

旭川市近文コタン生まれ。  
夫君の故杉村満氏と共に旭川アイヌ語教室の開設以来の主要な構成員で、近年ではアイヌ語上級講座講師も勤める。刺繍、踊り、料理を中心に民族の伝統・文化の保存と普及に努めている。  
母君はアイヌ語・アイヌ文学の伝承者として名高い杉村キナラブク唄。

### 教科書執筆協力（ドリル原案作成）

#### 手塚 順孝（てづかよりたか）

東京都板橋区生まれ。中央大学大学院文学研究科博士前期課程修了。修士（文学）  
米国ポートランド州立大学大学院TESOL修士課程修了。英語科教授法修士。  
中央学院大学兼任講師・明治大学法学部非常勤講師。  
専門は言語政策・言語教育を対象とした認知言語学的研究。

### 録音協力（声の出演）

太田 奈奈（旭川チカップニ・アイヌ民族文化保存会）  
川村 久恵（旭川チカップニ・アイヌ民族文化保存会）  
川村 愛（旭川チカップニ・アイヌ民族文化保存会）  
川村 晴道（旭川チカップニ・アイヌ民族文化保存会）

## アイヌ語ラジオ講座のスケジュール

月	日	タイトル	ページ
10月	3日	トウイタク(1)	5
	10日	トウイタク(2)	7
	17日	トウイタク(3)	9
	24日	トウイタク(4)	11
	31日	トウイタク(5)	13
11月	7日	地名(1)	15
	14日	地名(2)	17
	21日	地名(3)	19
	28日	練習問題(6)	21
12月	5日	オイナ(1)	23
	12日	オイナ(2)	25
	19日	オイナ(3)	27
	26日	練習問題(7)	29

### 【旭川アイヌ語教室の活動について】

旭川アイヌ語教室は、毎週日曜日、18時30分から21時まで、旭川市市民生活館で開講されています。年齢、性別などいかなる条件も問わず、どなたでも歓迎します。お問い合わせは、

川村カ子ト アイヌ記念館（電話0166-51-2461）

までお気軽にご連絡下さい。また、記念館公式ホームページ（<http://www.g-web.co.jp/ainu/>）もご覧下さい。

# アイヌ語旭川方言：発音と表記法

## アイヌ語旭川方言

本年度のアイヌ語ラジオ講座では、旭川方言を学びます。ここで旭川方言と呼ばれるのは、主に石狩川中流域から上流域にかけての地域で話されていた言葉です。石狩方言と呼ばれることもありますが、「石狩」という地名を用いると札幌を中心とする現在の石狩支庁を想起しやすく誤解を招きやすいことからこの名称を避け、むしろ当該方言話者の主な生活地であり、またこの方言のアイヌ語教室の開催地でもある「旭川市」から名前を取って旭川方言と呼ぶのが慣習的になっています。

旭川方言は、石狩川にあるカムイコタンより下流に住むパニウクル(川下の人)の言葉とカムイコタンより上流に住むベニウクル(川上の人)の言葉の二つに下位分類されます。それぞれ、空知方言と上川方言と呼ばれることもあります。これら二つの下位方言は、他の地域の方言と比べれば互いに極めて似通っているのですが、パニウクルとベニウクルの人々は互いの微妙な言葉遣いの違いを意識していたようです(第一期の教科書kampinuye 6の「文化的背景」の項を参照)。このような方言上の差異はそれぞれの地域のアイデンティティーを象徴するものであったのか、川下から川上へあるいはその反対に移り住んだものは行った先の言葉を使うよう強く勧められたり、元の地方の言葉をあからさまに使い続けると、たしなめられたりもしたそうです。

また、目下調査中のため、まだはっきりとしたことは言えないのですが、古い資料などから石狩川の下流域から河口にかけての地域で話されていた言葉も旭川方言とおおむね同様な方言であった可能性が示唆され始めています。もし、この示唆が事実であるとする、上川方言と空知方言からなる旭川方言と石狩川下流域の方言全てを包括するより大きな方言は「石狩方言」と呼ぶのがふさわしいかもしれません。この方言は全て石狩川筋に分布するわけですし、札幌の一部もこの方言圏に属することになるからです。このようなことを考えると、今後これらの方言に関して行われる研究の動向からは目が離せません。

## アイヌ語旭川方言の発音

アイヌ語の他の方言と同様、旭川方言でも意味の違いを生じる音の最小単位(音素と呼ばれます)は、ア、エ、イ、オ、ウの五つの母音とカ、サ、タ、ナ、ハ、マ、ヤ、ラ、ワ、チャ、パの中でアの前に響く11の子音(アルファベットでは、k, s, t, n, h, m, y, r, w, c, pと表記されます)を合わせた計16個だけです。ただし、意味の違いを生じないものの、カ、サ、タ、チャ、パの代わりにそれとはやや異なる響きを持つ音(異音と呼ばれます)が用いられることもあります。カの代わりにガ(例:インカラをインガラ)、サの代わりにシャ(例:サマニをシャマニ)、タの代わりにダ(例:ネコンタをネコンダ)、チャの代わりにジャまたはザ(例:アチャボをアジャボまたはアザボ)、パの代わりにバ(例:サパをサバ)が使われることがあります。これら交替する音同士(異音同士)はどちらを使っても基本的には良いのですが、旭川方言としてより頻繁に使われる音というのも実際あるようで、パベピボプの代わりのバベピボプはその代表的なものです。

このような音の変化に加えて、子音が連続する場合・母音が連続する場合の音の変化があります。また、アクセントとその位置、音節末の子音などアイヌ語の発音についてやがては知っていかなければならないことがまだ幾らかあります。けれども混乱するといけませんので、ここで更に詳説することを避けたいと思います。まずは講座で発せられる実際の発音に注意深く耳を傾けて、そこで聞かれる音に慣れることを目標としましょう。第二期以降になって個々の単語や句の発音に慣れてきた頃に、ここで扱わなかった事柄を改めて取り上げ、それらについても少しずつ学んでいくことにします。

## アイヌ語の表記法

アイヌ語には、比較的最近まで正書法というものが存在しませんでした。研究の場で比較的長きに渡って実践されてきたアルファベットとカタカナ併記による表記法が『アコロイタ』(北海道ウタリ協会1994)という教科書で採択され、それが正書法に近い形で確立されました。本講座でも、教科書の本文ではこの表記法にないませんが、旭川アイヌ語教室での実践に従ってアルファベット表記を優先的に用い、カタカナは発音などを捉えやすくするための補助的な使用にとどめます。従って、本文以外の解説でのアイヌ語表記には基本的にアルファベットを用いています。これは、アイヌ語以外の言語を母語とする人がアイヌ語を学ぶ際の便宜を図るもので、今後の正書法確立に対して何ら特定の示唆を意図したものではないことを申し添えておきます。

## アイヌ語の文体

日本語でも口語体と文語体の区別があるようにアイヌ語にも類似した文体の区別があるようです。これは、第一期の教科書のkampinuye sine(第一課)の文化的背景で紹介したように、動詞に見られる「単数と複数」という文法的(形式的)な区別と意味・機能上で関係が深いようです。親しいもの同士で交わされる日常的な会話や文学性の必ずしも高くない語り物で用いられるのが口語体とでも呼ぶことが出来る文体で、これは方言的な差異も大きく時にはぶっきらぼうな言い方に響くこともある言葉遣いです。それに対して、初対面の人同士やあるいは社会的地位に差のある者同士の間で交わされるより正式な言葉遣い、文学性の高い語り物ないしは語り物で用いられる言葉遣いは文語体とでも呼ぶことが出来る文体で、しばしば丁寧な言い回しと受け取られます。

子供の自然な言語獲得という観点から見ると、口語体を身に付けるほうが圧倒的に早く、文語体はそれよりも大分後になってから獲得されるはずなのですが、大人が別の言語を母語として身に付けた後に異言語としてアイヌ語を学ぶとなると最初に口語体のみを学び始めるのは余り得策とはいえません。ある意味ではぶっきらぼうな、またある意味では子供っぽい言葉遣いをするようになるからです。

そこで、第一期の前半では同じ口語体でも完全な略式の言い回しではなく、やや文語寄りの正式な言い回しを先ず取り上げ、第一期の後半で略式の言い回しを学ぶことにしました。そうすることで、学んだ表現をすぐさま使ったとしても、大人の言葉遣いとしてそれほど不適切ではないアイヌ語で会話が出来よう配慮しました。これを受けて、第二期では口語的な略式の言い回しと文語的な正式な言い回しの両方を織り交ぜながら、方言や年齢による差異も取り入れることによって、現代アイヌ語会話の多様な有り様を描き出そうと試みました。いよいよ、第三期からはこれら会話に加えて本格的な文語(文芸語あるいは雅語)について学んでいくことになります。その手始めとして、自叙という形で展開するアイヌ文学のジャンルのうち、神々の物語(旭川ではオイナと呼ばれます)と人々の物語(旭川ではトウイタと呼ばれます)を取り上げます。英雄の物語(いわゆるユーカラ)は、その他の文語と共に第四期で扱うことにします。



# kampinuye 27 (arwanpe ikasma hot): トウイタク(1)

カンピヌイエ アラワンペイカシマホツ

ramma kane okay =an, ランマカネ オカヤン	いつも変わりなく私は暮らし、
kesto kesto, kemeiki, ikarkar patek ケットケット ケメイキイカカラパテク	毎日毎日針仕事、刺繍ばかり
an= eyaynewsarka wa oka=an. アネヤイネウサカワオカアン	して楽しんでいた。
sineanta inu =an_hike シネアンタ イヌヤニケ	ある時、聞いたところ
an=kotan peni ta an kotan kor_nispa siyeye, アンコタンペニタアン コタンコンニシパ シイエイエ	私の村の川の川の上流にいる村おさが
nekon an=kar yakka wen kasuy, ネコナンカラヤッカ ウェンカスイ	病気になり、どんなにしても悪くなり、
tane anakne ray kotom hawas タネアナッネ ライコトムハワシ	もはや死にそうであるという。
sinean_ukuran, mokor=an awa, シネアヌ克蘭 モクラナワ	ある夜私が眠ると
an=paerupsi ta sine kamuy ne an kur a wa, アンパエルプシタ シネカムイネアヌクラワ	枕元にひとりの神である人が座っていて、
ene itak hi, エネイタク	このように言った、

## 学習の要点

### 1. an=; =an

第二期教科書のkampinuye 16「学習の要点1」で人称接辞について学びました。動詞で表される動作の「仕手」や「受け手」が、「話し手」か「聞き手」かによってku=, en=, e=, es=, an=などが使い分けられます。話し手・聞き手の両方（つまり「聞き手を含む私たち」）の行為を表現する他動詞の前にはan=が付きます。また、kampinuye 25「今日の構文」で扱ったように同様な「聞き手を含む私たち」の行為を表現する自動詞の後ろには=anが付きます。このようにan=, =anは、「聞き手を含む私たち」を意味することから「話し手と聞き手は同じグループに属する」ことを前提とします。そのため、語り手（物語の主人公）と聞き手がどちらも同類の「人」となるトウイタク（人々の物語）では、これらan=, =anの形が用いられるようです。つまり、物語でのan=, =anは「あなたたち聞き手と同類である私は」を意味していると考えられます。

### 2. ...hike/awa

人々の物語の冒頭部分には、[文]+\_hike/awa「(～した・していた) ところ」のような形が多く見られます。これは、語り手が、物語の中できっかけとなる出来事、事件が起こるまでの状況を略述する表現です。\_hike/awaの前の動詞句はoka(y)=an「暮らしていた」であることが多いようで、「～のようにして暮らしていたところ」のような内容になります。それ以外にも、本文のようにsineanta inu\_=an\_hike「(ある状況があって) ある日、聞いたところ」という表現になる場合もあります。

ramma kane i=resu yupi i=resu wa oka=an_hike...	いつものように 私の育ての兄 私を育てて 私は暮らしていたところ…	…no nispa an=ne_hine okay_=an_hike	…で、私は富者で暮らしていたところ…
anokay anakne an=_hoku wenkur ne wen...wenkur utar ne wa oka=an_hike...	私は 夫が貧乏人であり 私たちは貧乏人として暮らしていたところ…	i=resu yupo an=pon yupi koetunankar 共に i=resu wa okay=as awa...	私の育ての兄と その年下の兄は 私を育てて暮らしていたところ…

### 3. ramma kane; kesto kesto

物語の中できっかけとなる出来事、事件が起こるまでの状況の略述に良く使われる表現として、ramma kane「いつものように、相変わらず」、kesto kesto/kesto an kor「毎日、毎日」があります。

...oka=an wa kesto an kor sirkanuye emuskanuye patek=an kor oka=an_aike...	私は暮らしていて、毎日、鞘彫り、刀の鞘彫り ばかり、私はしていましたところ…	ramma kane i=resu yupi i=resu wa oka=an_hike...	いつものように 私の育ての兄が 私を育てて 私は暮らしていたところ…
--	--	---	------------------------------------

## 4. tane anakne...; ...sekor/kotom hawas

「学習の要点1」および2で見た表現で導入された冒頭部分に続いて、物語の中できっかけとなる出来事、事件が描写されます。そのような描写に比較的良く見られるのが、tana anakne+[文]「今は(もう)、今や、今となっては～(である)」または[文]+sekor/kotom hawas「～だという・～しそうだという」、あるいはそれらを組み合わせた表現です。

## 今日の構文

### ene 動詞句\_hi

kampinuye 5ではeneが「このように、そのように」を意味することを学びました。ene+[動詞句]+hi/katuという構文の中でもeneはやはり同様な意味を持つと考えられますが、この構文は特に「～する(した)方法、様子、こと」といった意味を表します。そのため、本文のene itak hiは文字通りには「彼の語った様子(は)・彼の語り方(は)」ですが、差し詰め「彼が言ったこと(は)」程度の意味になります。kampinuye 16「今日の構文」に出てきたene an=rekore katu...neも同じ用法です。

ene an=kar_hi ka isam	どうしようもない(する方法がない)
ene an=rekore katu Rukohanke ne	名前はルコハンケである(呼ばれ方はルコハンケだ)
ene itak=an_hi: "hokure hokure..."	私が言ったことは、「さあ、早く」…

## 今日の単語

- aア【自動詞】座る。(反as; 複rok); an=osoro sirka ne an=ranke (尻を地面に下ろす)
- anアン【自動詞】ある、いる、暮らす、あらわれる。(反isam; 複okay); katu kor, tum kor (姿が持つ、体を持つ)
- an=アン【人称接辞】【+動詞】(聞き手を含む) 私たち(が～する)、一般に人(が～する)、[受身を形成して](～ざ)れる、[物語の中で]私(が～する)。(類an=); [+名詞](聞き手を含む) 私たち(の～)、[物語の中で]私(の～)。: itak kur utar iki sekor an moymoykeitak etoko us (話し手が何かするという動詞の前に付く)
- =anアン【人称接辞】【動詞+】(聞き手を含む) 私たち(が～する)、一般に人(が～する)、[物語の中で]私(が～する)。(類=an); itak kur iki sekor an moymoykeitak okake us (話し手が何かするという動詞の後ろに付く)
- anakneアナッネ【副詞】(話題・対照となる要素を取り立てて)～は。: sine itak an=numke hi ta nean itak osi ek itak (一言選び出すときその後に来る言葉)
- asアッ【自動詞】立つ、[雨・雪]が降る、[風]が吹く、[噂]となる、[文sekor/kotom+haw asの形で]～と言う、～という話である。(反a; 複roski); rikin (高くなる)、an (現れる)
- awaアワ【接続助詞】【文・動詞+】(～する)と。: kor (～すると)
- eneエネ【副詞】こう、そう、ああ。: (自分の思い描いていることを指して) こう、そう、ああ。: [ene anの形で] こんな、そんな、あんな。: [ene動詞句hi/katuの形で] ～の仕方、～する様子、～するには。: an=eramu p neno an (考えているような)
- eyaynewsarkaエヤイネウサッカ【他動詞】～をして楽しむ。: an=ki kor kiroroan, an=eramuriten, an=ekiroroan (～をして楽しむ)
- hawハワ【形式名詞】【文+】(人から聞いたことから判断して) (～する・した) こと、(～する・した) という話。: an=ye p (言われたこと)
- hawasハワシ【自動詞】言う、[文+hawasの形で] (～する) 声がる、[文sekor/kotom+hawasの形で] ～と言う、～という話である。: an=ye (言われる)
- hiヒ【形式名詞】【文+】(～する・した) こと。: [文+](～する・した) 時; [tan/taan/toan/nean+] (こ・そ・あそ・そ) こ。: [ene 動詞句 hiの形で] (～する) 方法。: katu (～という様子)、hawe (～という話)
- hikeヒケ【接続助詞】【文・動詞+】(～する) と。: awa (～すると、～したところ)
- ikarkarイカッカ【自動詞】刺繍する。: [名詞] 刺繍。: ka ani noka an=nuye (糸で絵を描く)
- inuイヌ【自動詞】聞く、耳を傾ける。(他nu); an=kisara an=kiru (耳を向ける)
- itakイタク【自動詞】話す、語る。: nep ka ye (何か言う); [名詞] 言葉、話。: an=ye p (言われたこと)
- kaカ【副詞】～も。: [疑問代名詞+] ～か。: ne yakka (～でも)、he (か)、ya (か)
- kamuyカムイ【名詞】神。: kimun kamuy熊。: <形容詞的に用いて> 尊い、立派な、非常に優れた。: aynu ka somo ne utar (人間でない者たち); [+ re] pase ([+名詞] 尊い)
- kaneカネ【接続助詞】【文・動詞+】(～して、(～し)ながら、[副詞+]～に。: wa (～して)、kor (～しながら)
- karカワ【他動詞】～を作る、～をやる。: monrayke=an wa nep ka an=ante (努力して何かを現れさせる); (草木の枝から) を摘む・採る : nitek munnetopa or wa (usa hat usa kutci) an=uk (枝、茎から～を採る)
- kasuyカスイ【自動詞】(～し) 過ぎる。: eikos (kane) (あまりに～過ぎる)
- kemeikiケメイキ【自動詞】針仕事をやる。: itese, ikarkar (刺繍する)
- kestoケット【名詞・副詞】毎日。: [kesto kestoの形で] 来る日も来る日も。: numan ka, tanto ka, nisatta ka (昨日も、今日も、明日も)
- korコロ【他動詞】～が～を持っている、～に～がある。(複他kore); [～kor…の形で] ～の…。: [nep<sup>1</sup> nep<sup>2</sup>+] [何か<sup>1</sup>] [何か<sup>2</sup>] を持っている、[何か<sup>2</sup>] [何か<sup>1</sup>] がある。(反sak); [nep<sup>1</sup> nep<sup>2</sup>+] nep ka<sup>2</sup> nep ka<sup>1</sup> or ta an ([何か<sup>2</sup>] が [何か<sup>1</sup>] がある。)
- kotanコタン【場所名詞】村、集落、町。: or ta aynu cise kar wa okay hi (人が家を作り住むところ)
- kotomコトム【接続助詞】今にも(～し) そうで、今にも(～し) そうに。: nankor sekor yaynu=an (～するだろうと思われる)
- kurクル【形式名詞】[動詞・文+] (～する・した) 者、(～する・した) 人。: pe (～するもの)
- mkorモコロ【自動詞】寝る、眠る。: hotke=an wa cinita usa an=ki (横になって夢を見るなどする)
- neネ【他動詞】～が～である、～が～になる。: [nep<sup>1</sup> nep<sup>2</sup>+] [何か<sup>1</sup>] が [何か<sup>2</sup>] である、[何か<sup>1</sup>] が [何か<sup>2</sup>] になる : toanpe pu ne あれは倉庫だ。: [nep<sup>1</sup> nep<sup>2</sup>+] nepka<sup>1</sup> newa nepka<sup>2</sup> sinep ne, nepka<sup>1</sup> nepka<sup>2</sup> ne yakar ([何か<sup>1</sup>何か<sup>2</sup>+]) 何か<sup>1</sup>と何か<sup>2</sup>は同じだ、何か<sup>1</sup>が自分を何か<sup>2</sup>にする)
- nekonネコン【副詞】どう、どのように。: [nekon anの形で] どんな、どのような。: nep neno (何のように)
- nispaニシパ【名詞】紳士、旦那。(反katkemat); icen poronno kor aynu (お金持ちの男の人)、pase kur (立派な人)
- okaオカ【自動詞】=okay
- okayオカイ【自動詞】ある、いる、暮らす、あらわれる。(反isam; 単an); katu kor, tum kor (姿が持つ、体を持つ)
- paerupsiパエルプシ【名詞】～の枕元。: eninuype sama (～の枕の側)
- patekパテック【副詞】～ばかり、～だけ。: mosma okay pe isam no (他のものは無く)
- peniベニ【場所名詞】(～の) 川上。: or wa peturasi=an kor an hi (そこから川に沿って上るとあるところ)
- rammaランマ【名詞・副詞】いつも。: hempara ne yakka (いつも)
- rayライ【自動詞】死ぬ。(反siknu; 他rayke, ronnu)
- sineシネ【形容詞】一つの～。: ipiski=an yak hoski ek (数えると最初に来る)
- sineanシネアン【形容詞】ある～。: nep ka an (何かの、いずれかの)
- sineantaシネアンタ【名詞・副詞】ある時、ある日。: sienan to ta (ある日に)
- siyeyeシイエイエ【自動詞】病気である、病気になる。: [名詞] 病気。: arka=an (病気である、病気になる)
- taタ【助詞】[場所名詞・位置名詞+]～に、～で。: oma wa (～にあつて、～にいて)
- taneタネ【副詞】今、もう、いますぐ。: itak=an hi, nean hi ta (話している時、その時に)
- ukuranウ克蘭【名詞・副詞】夜。: kunne (夜)
- waワ【接続助詞】～して、～してから。: [動詞+wa anの形で] [既に～し] ている、[～し] である。: kane (～した上で)
- wenウェン【自動詞】悪い。(他wente); 悪い、ひどい。: somo pirka (良くない)
- yakkaヤッカ【接続助詞】(～する・した) としども。: hi anpe ne kotom an korka (～することは事実でありそうだけれども)

# kampinuye 28 (tupesanpe ikasma hot): トウイタク(2)

カンピヌイエ トゥベサンペイカシマホツ

“Otasut\_un katkemat,  
 オタストウンカッケマツ  
 itak =an ciki u pirka nu wa i=korpore ya.  
 イタカンチキ ウピリカヌワ イコロパレヤ  
 sinuma anakne tan kotan peni ta an  
 シヌマアナツネ タンコタンペニタアン  
 kotan\_or ta an to kor kamuy an=ne wa  
 コタノッタアン トコロカムイアンネワ  
 okay =an pe an=ne.  
 オカヤンペアンネ  
 to okari puy an= etoyta kor  
 トオカリ プイアネトイタク  
 tan kotan kor nispa kor katkemat puy ta kor  
 タンコタンコンニシパコロカッケマツ プイタク  
 sine tuy ka somo ama no opitta ta wa okere.  
 シネトウイカ ソモアマノ オピッタワオケレ  
 an=ruska kusu kotan kor\_nispa an= arkare yakka  
 アンルシカクス コタンコンニシパ アナラカレヤッカ  
 kespa kespa neno iki,  
 ケシパケシパ ネノイキ

「オタストウのご婦人、  
 私が話すからよく聞いて下され。  
 私はこの村の川の上流にある  
 村のところにある沼の神であって  
 暮らしていたものである。  
 沼のまわりに私がヤチブキの根を私が植えたところ、  
 この村おさの妻がヤチブキの根を掘り  
 一本も残さずすべて掘ってしまった。  
 腹が立ったので村おさを病気にしてやったが  
 毎年毎年そのようにそうして、

tane henpar\_ne yakka neno ikipa kor okay wa  
 “nep an=yup\_utari nepki kusu ene ikipa\_hine ora  
 ene iporo ka wen kane okay wa\_hosippa a”

もうずっとこのようなことをしている。  
 「兄たち何をするために同じことを繰り返して、  
 あのように顔を悪くして帰ってくるのだ。」

i=koyki korka mosmano oka=an\_hine ahup=an\_hine  
 oka=an\_a, nekon an=\_sa i=koyki \_hike ka ari neno oka=an aike tane

姉はそう言って私を叱るけれども私は黙って家に入り  
 中にいた。どんなに姉が私を叱っても  
 そのままでいると、とうとう

## 今日の構文

**動詞句 + wa okere**  
 物語の展開上、問題の状況が改善されること無く続いたために、**決定的な状態・最悪の状態にたどり着いてしまったことが描写されます。****動詞句 + wa okere**「ついに～してしまった・とうとう～してしまった」は、そのような描写にしばしば用いられます。

icakkere wa ci=nukar_rok pe nekon ci=ramu ka somo ki no ci=e wa okere	汚いって 見ていたのに それを何とも思わずに 食べてしまった	wen kamiasi peray wa orowa an=yup_utari tun an=e wa okere	悪い化物が釣りをしている、 そいつに兄たち二人が 食べられてしまった。
--	---	---	---

## 学習の要点

### 1. Otasut un katkemat

Otasut un katkemat, Poyya-un-pe, Sar-un-kur  
 ある土地の人を指して「どこどこの人」と言う時、アイヌ語では **地名 + un + 人を表す名詞** という言い方をします。ここで使われる un は、kampinuye 9「学習の要点1」で学んだ「～が～に本来的にある、～が～につく」という意味の他動詞で、このような言い方では「～に住む」程度の意味になります。なお、～un～を分けて書くか、くっつけて書くかは定まっています。

Petcamun ekasi	川村のおじいちゃん (< petsam-un-ekasi 川端・に住む・おじいちゃん)
Peniunkur	川上の人 (< peni-un-kur 川上・に住む・ひと)
Poyyaunpe	ポイヤウンベ (< pon-ya-un-pe 小さな・陸地・に住む・者) (英雄の物語の主人公)

### 2. itak=an ciki...wa i=korpore ya

**文 + ciki... は、父、母、兄、姉などの語り手よりも目上の者または神などが語り手に向かって話す場面で用いられる表現で、よく見られるのは itak=an ciki...「私がこれから話すから…」** というもので、pirkano nu wa en=kore, pirkano nu wa un=kore, pirkano nu wa i=korpore yan (いずれも「聞いてください」の意味) や e=inu katu ene an hi (お前が耳を傾ける様子は) などの表現を経て話す内容に移ります。

itak=an ciki	私が話すから
e=inu katu ene an_hi	お前はそれを聞くのだ (お前が耳を傾ける様子は)

### 3. tan kotan peni ta; to okari

場所を表す名詞の中には、ka「上」、corpok「下」、soy「外」、oske「中」のように、直前に別の要素を伴ってそれぞれ「～の上」、「～の下」、「～の外」、「～の中」となるものが一定数存在します。本課の本文に現れる peni も前に要素 (本文では tan kotan) を伴って「～の上流」という意味になりますし、前の課の本文に出てきた paerupsi「枕元」も同じような名詞です。(ka, corpok, soy, oske のような名詞と peni や paerupsi のような名詞は、kampinuye 33「学習の要点2」で扱う文法的違いに基づいて「位置名詞」と「場所名詞」の二つに区別されます。) **それに対して okari のような語はそれ自体で「(その) 周りで」といった独立した副詞としての意味を持つ一方で、やはり前に要素を伴って「～の周りで」といった助詞としての機能も果たします。** いずれの場合も、日本語では「川上」、「上流」、「周りで」と前の要素の間には「の」という表現が挟まるのが普通ですが、アイヌ語では「の」に当たる要素は用いられません。このように、アイヌ語の場所を表す表現は日本語の場合と少し勝手が違うため注意が必要です。

### 4. Otasut un katkemat

物語の展開上、「ある登場人物 (人間とは限らず、神の場合もあります) が問題のある行為を続けており、それをやめれば問題は解決するのにそのまま続けた」ということがしばしば描かれます。大抵、その結果「誰かの逆鱗に触れるなどして、この登場人物は直接ないし間接的に酷い目に合わされる」こととなります。このような展開を描くのに用いられるのが、**文 + yakka/korka...neno ... と** いった表現です。yakka「～しても」、korka「～したけれど」で「**続けている行為を止めた方がよい**」ことが示され、neno「(以前と) 同じように (～した)」で**相変わらずその行為を続けたことが描写されます。**

## 今日の単語

ama アマ【他動詞】～を置く、～を残す、取っておく。(類 anu) : an=anu (～を置く、～を残す)  
 arkare アラカレ【他動詞】～を病気にする。(自 arka, siyeye) : an=siyeyere (病気にならせる)  
 ciki チキ【接続助詞】[文+] (～する) なら : [+命令文] (～する) から。 : [iki +] iki=an hi ta (～する時に) , iki=an yak (～したら)  
 etoyta エトイタ【他動詞】～を植える。 : sir ka ta an=ante (地面にあらせる)  
 i=イ【人称接辞 +】[動詞] 私たち (を～する)、私たち (に～する)、【物語の中で】私 (を～する)、私 (に～する)。(類 un=) : itak kur utar ekota iki=an sekora  
 an moy moy keitak etoko us (話し手たちに対して何かかされるという動詞の前に付く) : [+位置名詞] 私たちの～、【物語の中で】私の～。  
 iki イキ【自動詞】する、そうする。(他 ki, kar) : nep ka an=ki (何かをする)  
 ka カ【副詞】～も。 : [疑問代名詞+] ～か。 : ne yakka (～でも) , he (か) , ya (か)  
 katkemat カッケマツ【名詞】奥さん、婦人。(反 nispa) : hoku kor mat (夫を持つ女性)  
 kespa ケシパ【名詞・副詞】毎年。 : hoski an pa ka, tanpa ka, oyapa ka (去年も、今年も、来年も)  
 kor【接続助詞】[文・動詞+] (～する) と、(～した) と。 : hike, awa (～したところ)  
 korpore コロパレ【他動詞】[二重目的語+] ～が～に～を与える。(単 kore) : [nep<sup>1</sup> nep<sup>2</sup> nep<sup>3</sup>+] [何か<sup>1</sup>] が [何か<sup>2</sup>] に [何か<sup>3</sup>] を与える。 : [i=korpore ya(n) の形で] ～して下さい。 : [nep<sup>1</sup> nep<sup>2</sup> nep<sup>3</sup>+] nep ka<sup>2</sup> nep ka<sup>3</sup> kor kuni nep ka<sup>1</sup> iki ([何か<sup>2</sup>] が [何か<sup>3</sup>] を持つように [何か<sup>1</sup>] する。 : [動詞 wa (人称接辞) +] ～に (～して) あげる、～に (～して) くれる。 : an=ki kor an=kasuy (～しながら～を助ける)  
 kusukus 【接続助詞】～なので、～だから。 : [節+] [～する・した] ので、[～する・した] から。 : [iki +] iki p an wa (～したことがあって)  
 neno ネノ【副詞・助詞】そのように、～のように。 : [単独で用いられる] (前で言われたことを指して) そのように。 [名詞+] ～のように。 : [neno an の形で] そのような、～のような。 : hoski no an=ye p ye kor “taa” (既に言われたことに触れながら「こう」)  
 no ノ【副詞語尾】[自動詞+] (副詞化する。) ～に、～く、～て。 : [副詞・助詞] 口調を整える。 : ruwe ne kor (～であり)  
 nu ヌ【他動詞】～を聞く、～に耳を傾ける。(自 imu) : ekota an=kisara an=kiru (～に耳を向ける)  
 okari オカリ【他動詞】～を回る。 : [助詞] ～の周りに。 : piskani ta (～の周りで)  
 okere オケレ【他動詞】～を終える、(生き物)を滅ぼす。 : [動詞 wa okere の形で] (～し) 終える。 : [助動詞] (～し) 終える、すつか (～し) てしまう。 : nep ka an=ki wa kese pakno iki=an (何かをして終わりまでやる)  
 opitta オピッタ【副詞】全て、みんな。 : tanpe ka taanpe ka nep ne yakka (これも、あれも、どれも)  
 or オロ【位置名詞】ところ。 : [名詞・人称接辞+] (～の) ところ。 : hi (ところ)  
 Otasut オタスツ【地名】オタスツ。 : ney ta ka yaunmosir ka ta an hi (どこか北海道にある場所)  
 pe ペ【形式名詞】[動詞・文+] (～する・した) もの、(～する・した) こと。 : hi (こと) , nep ka (何か) : [接続助詞] [口語体] (～する・した) が、(～する・した) のに。 : korka (～する・したのに) : 子音で終わる動詞句に付く形。母音で終わる動詞句に付く形は-p。  
 pirka ピッカ【自動詞】良い。 : 良い、綺麗である、元気である。 : an=eramasuy (好ましい)  
 puy プイ【名詞】ヤチブキの根。 : sinean kina sinrici (ある植物の根)  
 ruska ルシカ【他動詞】～に腹を立てる、～に怒る。(自 iruska) : an kusu iruska=an (～があるために怒る)  
 sinuma シヌマ【代名詞】私。 : itak kur ene an=rekore katu (話し手の呼び方)  
 somo ソモ【副詞】[+動詞] [～し] ない。 : [方言ノート] 他の多くの方言でも somo が用いられるが、静内や三石などでは henne, homo が用いられるらしい。 : [+hiki] iki hi ka isam ([+そうである・そうする] そうであること・そうすることがない)  
 ta タ【他動詞】(水)を汲む、(地面から)～を掘る、(水面から)～を取る。 : sir wakka kaske wa uk (地面、水面から～を取る)  
 tan タン【形容詞】この。話し手と聞き手のいる場所 ([ie テ] や [reor テオロ] で指し示される場所) の中にある。(反 taan, toan) : “te, teor” ta an, or, ta itak kur inu kur tura an hi ta an (「ここ」にある、話し手と聞き手のいるところにある)  
 toト【名詞】沼、湖。 : wakka uekarpwa wa oma hi (水が集まってあるところ)  
 tuy トゥイ【助数詞・形式名詞】～本、～切れ。 : tuka (～本)  
 uウ【虚辞】口調を合わせるために用いられる。  
 un ウン【他動詞】～が～に本来的にある、～が～につく。 : [nep<sup>1</sup> nep<sup>2</sup>+] [何か<sup>1</sup>] が [何か<sup>2</sup>] に本来的に存在する、[何か<sup>1</sup>] が [何か<sup>2</sup>] に生息する、[何か<sup>1</sup>] が [何か<sup>2</sup>] につく。 : [nep<sup>1</sup> nep<sup>2</sup>+] ney ne yakka nepka<sup>1</sup> nepka<sup>2</sup> or ta an, nepka<sup>1</sup> anakne nepka<sup>2</sup> or ta an pe ne (いつでも何か<sup>1</sup>は何か<sup>2</sup>のどこにある、何か<sup>1</sup>は何か<sup>2</sup>のどこにあるものである)  
 ya ヤ【文末詞】～しますが、～して下さい。 : [文+] [～し] ますが、[～して] 下さい。 : an=erampetek pe usa an=eramuskare p usa nen ka an=ekopis hi ta ikopis itak kes ta an=anu p (分からないこと知らないことを誰かに尋ねる時、尋ねる言葉の最後につける言葉)



# kampinuye 29 (sinepesanpe ikasma hot): トウイタク(3)

カンピヌイエ シネペサンペイカシマホツ

tane anakne ray noyne kotom an. タネアナッネ ライノイネコトマン	今にも死にそうであるようだ。
tane wano, katkemat puy ta yakka タネワノ カッケマツ プイタヤッカ	これから、奥さんがヤチブキの根を掘っても
tane pakno neno iki yakun, タネパクノ ネノイキヤクン	今までのようにするなら、
kotan kor_nispa newa katkemat ka an=rayke na. コタンコンニシパネワ カッケマツカ アンライケナ	村おさと奥さんも私は殺すぞ。
tane wano, kotan kor utar yayunaske yakun, タネワノ コタンコロウタラ ヤユナシケヤクン	これから、村の人々が謝るなら、
nispa an=siknuka nankor.” ニシパアイシケヌカナンコロ	村おさを生かしてやろう」
sekor i=cinitare. orowano セコロイチニタレ オロワノ	と私は夢で知らされた。それから、
an=kotanu peni un kotan an=koapkas, アンコタヌペニウンコタン アンコアッカシ	私の村より上流にある村へ出かけて、
kotan noski ta an poro cise soy ta sihumnyuar =an_awa コタンノシキタアン ポロチセソイタ シフムヌヤラナワ	村の中央にある大きな家の外で私が咳払いすると
sine katkemat asin_hine, i=ahunke. シネカッケマタシニネ イアフンケ	一人の奥さんが出てきて私を家の中に入れた。

## 📖 学習の要点

### 1. tane pakno, tane wano

tane paknoは「これまで」、tane wanoは「これから」という意味で、発話の時間を境にして「以前」と「以後」の状況を言い分ける表現です。なお、tane paknoはこれまでずっとという意味から「昔から」と訳される場合もあります。

tane pakno iwan suy ku=itura wa iraye=an korka tane an eper iyotta poro.	今まで六回一緒に狩をしたが、今回の熊が一番大きかった。
menoko anakne tanpe neno an pe ekutkor pe ne kusu tane pakno an menoko anakne tanpe neno an pe ekutkor.	女は、こういうものを腰に締めるので、ずっと昔から女はこういうものを締めてきたのだ。
tane wano es=uepirka es=ukor wa pirka ureska es=ki nankor na	これからお前達は仲良く暮らして結婚して良い生活をお前達はするんだぞ。
tane wano okay utar...	これからの人は…

### 2. ...sekor i=cinitare

cinitaは「夢を見る」を意味する自動詞、cinitareは「～に夢を見せる」という意味の他動詞ですが、「将来を夢見る」のような意味には用いないようです。事実、cinitaと同じかそれ以上にcinitareが用いられ、その場合の夢は情報伝達が主な役割と考えられています。そこで、cinita、cinitareはsekor「～と(いう内容を)」を伴って「夢で知らされる・夢で知らせる」という意味で解釈されるのが普通です。

“eper nep ka nep ne yakka eciki e=reska ya” sekor i=cinitare	「小熊であっても、決して育ててはいけないよ。」と私に夢を見させて
nekon e=iruska yakka nisatta an ne ciki i=or_ta ek wa e=iri wa e=inawkar i=kore. sekor cinita=an.	どんなにお前が腹を立てても明日になったら私のところに来て、皮を剥いで御幣を作って下さい」という夢を見た。

### 3. orowano

物語の展開上、「それまで語られていた場面から別の場面に移ること」、「それまで語られていた状況が変化すること」を伝えるために、しばしばorowanoが用いられます。時に、それまでの状況が一転してしまうことを明確にするために、tane pakno「これまで」を関係付けて用いることもあります。

orowano tane pakno atuy ka irammakaka nep ka koy ka isam pe ne a korka orowano erepasi nean raunkut an=ekupa orano erepasi ma=an pe ne kusu orowano atuy cise pakno okay pe ukar ri wa koy yupke wa orano an=_acaha utari ka kimatek wa	それから今まで海も穏やかで、何も波さえなかったが、それから沖へその下帯をくわえてから沖へ泳いだので、それから海は波が家ほど大きくなり、高く、波は激しくて、それからおじさんたちも慌てて、
--	--

教科書本文で取り上げたトウイタクでは、このようなorowanoが三つ見られます。一つ目と二つ目はこの用法と考えられます。三つ目の例は、二つ目の言い直しとして同様な用法とも解釈できますし、また「それ以後」という意味の時間の表現とも解釈できます。

...sekor i=cinitare. orowano an=kotanu peni un kotan an=koapkas,...	…と私は夢で知らされた。それから、私の村より上流にある村へ出かけて…
...orowano ne to teksama ta an puy an=ta kor sine tuy ne yakka an=_ama kor orowano tan kotan ta nep ka an=_eranak pe isam sekor hawas.	…それから、その沼のそばにあるヤチブキの根を掘る時には、一本でも残すとそれからこの村に何も心配事がなくなったとのことだ。

## 📁 文化的背景

### sihumnyuar=an\_awa sine katkemat asin\_hine i=ahunke

sihumnyuarは、既にkampinuye 8「文化的背景」で触れたように、訪問者が自分の来訪を告げ招き入れてもらうために取る行為です。この語はsi-hum-nu-yar(自分・の音・を聞く・させる)という成り立ちで、咳払いをしたり、壁を叩いたり、冬であればかんじき同士をぶつけたりして音を立てることを指します。同様な行為をsihawnyuar(自分・の声・を聞く・させる)やsimusiska(自分・むせる・させる)と言う地域もあるようです。

このような訪問者のsihumnyuarを聞きつけると、先ずはその家の娘や妻などの女性が家の外へ出て来て訪問者が誰か(あるいは見知らぬ人の場合どんな人か)を確認した後、再度家に入って家の主にそれを伝え、主がahupteあるいはunapte「招き入れなさい」と言うとその女性が再度家の外へ出て訪問者を招き入れるという手順を取ります。ですから、教科書の本文で村おさではなく奥さんがオタストゥンカッケマツを招き入れたのは、村おさが病気で寝込んで出られなかったからではありません。仮に村おさが元気であったとしても、村おさが最初に訪問者に会うことはなかったでしょう。

迎えに出るものがないときには、nen ne yakka ahun yan「どなたでもお入り下さい」あるいはahupte kur isam kusu ahun yan「招き入れるものがいせんからそのままお入り下さい」などと声を掛けるそうです。訪問者はこのように訪問先の人と接触を図るのが通常で、訪問者の方からciseの入り口の扉を開けたり、まして中を覗き込んだりは決してしません。

## MEMO

## 📖 今日の単語

ahunke アフンケ【他動詞】	～を入れる、～を招き入れる。(自ahun複ahup); ; oske ne an=ama(中に置く)、an=unapte(～を招き入れる)
asin アシン【自動詞】	出る。(反ahun; 複asip); soyke ne paye=an(外に行く)
cinitare チニタレ【他動詞】	[sekor+] ～に(～と)夢を見させる、～に(～と)夢で知らせる。(自cinita); cinita oske ta an=eramante(夢の中で知らせる)
cise チセ【名詞】	家。; an=uni(棲みか)
hine ヒネ【接続助詞】	～して。; wa(～して)
ki キ【他動詞】	～をする。(自iki; 類kar); nep ka an=ki(何かをする)
koapkas コアッカシ【他動詞】	～へ歩いて行く、～を出かける。; ekota apkas, ekota oman(～へ行く)
kotanu コタヌ【名詞】	～の村、～の集落、～の町。; or ta aynu cise kar wa okay hi(人が家を作り住むところ)
na ナ【文末詞】	[文+] ～よ、～ぞ。; an=epakasnu, an=pawetenke hi ta iyotta osi an=ye itak(教えたり指図したりする時に最後に言われる言葉)
nankor ナンコロ【助動詞】	[動詞+] ～するつもりだ、～するだろう。; kunak itak kur ramu(と話者が思う)
newa ネワ【助詞】	～と(～)、[～newa…kaの形で] ～と…のどちらも。; patek ka somo ne no(～だけでなく)
noski ノシキ【場所名詞】	～の中央、～の真ん中。; pa kes or wa tuyma hi(端から遠いところ)
noyne ノイネ【接続助詞】	(～し) そうで、(～する) ようで。; kotom(今にも(～し) そうで、今にも(～し) そうに。)
orowano オロワノ【副詞】	それから、それで。; neanpe ne ruwe ne kor(そのようであって)
pakno パクノ【副詞・助詞】	それまで、それほど、～まで、～ほど。; kosirepa wa(～に達して)
poro ポロ【自動詞】	大きい、大きくなる。; somo poro(小さくない)、rupne(大きい、大きくなる)
rayke ライク【他動詞】	～を殺す。(自ray; 複ronnu); ray kuni iki=an(～が死ぬようにする)
sekor セコロ【助詞】	～と。; [語、句、文+] ～と(言う、思う)。; yak, ari(～と)
sihumnyuar シフムヌヤラ【自動詞】	(自分の来訪を知らせるために)音を立てる。; ek=an hi an=eramante kusu humasi(来たことを知らせるために音を立てる)
siknuka シクヌカ【他動詞】	～を生かす、～を生か延びさせる。(反rayke, ronnu; 自siknu, onunposo); somo an=rayke no an=anu(殺さずに置く)
soy ソイ【場所名詞】	外。; oske somo ne hi(中ではないところ)
utar ウタラ【名詞】	仲間、同族、～たち。; [単独で時にutariの形で] 仲間、同族。[名詞+] ～たち。; sine sinrit kor pe(同じ先祖を持つ者)
wano ワノ【助詞】	=wa [位置名詞・場所名詞+] ～から。; [普通名詞・人称接辞 or +] (～のところ) から; (特定の表現で) ～に、～で。; soyke ene(～の外へ)
yakun ヤクン【接続助詞】	～すると、～するなら、～したら。; [動詞句・文+] 条件を導く。; [iki +] iki hi ta(～する時に)
yayunaske ヤユナシケ【自動詞】	謝る。; wen=an korka isittekka wa en=ekor sekor itak=an(自分は悪かったが許してくれと言う)

# kampinuye 30 (re hot): トウイタク(4)

カンビヌイエ レホツ

ahup=an_awa osison ta cise kor_nispa アフパナワ オシソシタ チセコンニシパ	私が入ると右座に家の主が
sattek siri hotke wa an. サッテツシリ ホッケワアン	やせ細っているようすで横になっていた。
ene itak_=an_hi, エネイタカニヒ	私はこのように話した、
“hokure, hokure, kamuy sikaopaste yayunaske yan, ホクレホクレ カムイシカオパッテ ヤユナシケヤン	「急いで、急いで、神の助けを求めて謝りなさい。
somo ne yakun yupkep an na!” ソモノヤクン ユッケパンナ	でなければ、とんでもないことになるよ」
sekor_itak_=an_awa kotan kor utar uekarpa, セコリタカナワ コタンコロウタラ ウエカラバ	そう私が言うと村の人々は集まり、
kamuynomi=an. to kor kamuy ekota yayunaske=an_ayne カムイノミアン トコロカムイエコタヤユナシケアナイン	私たちは神へ祈った。沼の神へ私は謝ったところ
kotan kor_nispa hopuni wa ipe kor コタンコンニシパホプニワイペコロ	村おさは起き上がって、食事をすると
husko katu ne an. フシコカトゥネアン	元の状態になったのだ。

## 学習の要点

### 1. ahup=an\_awa; sekor itak=an\_awa

kampinuye 27「学習の要点1」では、物語の中できっかけとなる出来事、事件が起こるまでの状況を略述するのにhikeやawa(ともに「～し(てい) たところ」の意味)が用いられることを学びました。これら表現の後には、物語の新しい場面や展開が語られることとなります。

これらhikeやawaは、冒頭ばかりでなく物語の途中でも新しい場面や光景、物語の新たな展開を導入するのに用いられて、「～したところ・～すると」ぐらいの意味になります。

...atuy ka ene inkar_=an_hike cep ne ciki cikoykip ne ciki wakka isam pe ne kusu cihotappare...	…海の表面を みると、 魚であれ 獣であれ 水がないので 苦しみにあばれて…	...an=_ona erasi an=oputuytekka _hike riwka corpok ene teyaka tum tusse _hine teyaka tum eus _hine ray ruwe ne kor...	…父を下へ 突き落とすと 橋の下に 泥の中まで 飛んで 泥の中 に突き刺さって 死んだのであり…
--	---	--	---

### 2. ene itak=an\_hi

kampinuye 27「今日の構文」で学んだように、ene + **動詞句** + hi/katuが「～する(した) 方法、様子、こと」といった意味を表します。そのため、kampinuye 27の本文に現れるene itak hiは「彼が言った様子(は)」という意味になることも指摘しました。ene itak=an\_hiも同様に「私が語った様子・私の語り方は」程度の意味になって語った内容が後に続きます。

また、この表現に見られるhiは、発音上/ihi/となることがあります。このような現象は、=an「私(たち)が」やan「ある・いる」の後にhiが来るときに多く起こります。この/ihi/は、hiに長形あるいは所属形を派生するための-hiという語尾がついて語頭のhが母音に挟まれて脱落している(つまり形式としては\_hihiとなっている)のか、それともhiの前に挿入音としてiの母音が増えられているのかがはっきりしません。いずれにしても、ene itak=an\_hiがしばしば/eneitakanihi/エネイタカニヒと発音されることに注意が必要です。

### 3. somo ne yakun

somoは、kampinuye 2「学習の要点2」で学んだ否定辞です。日本語の場合と違い、否定される要素(多く動詞)の前に置かれることに注意が必要です。neはkampinuye 2「今日の構文」で学んだように、名詞句を二つ取って「～が…である」という意味を表すだけでなく、二つの名詞のうち主語が表現されずに「それは～である」という意味を表すか、または両方の名詞が表現されずにそれぞれ前で言及されたものを指して「(それは) そうである」という意味でも用いられます。somo ne yakunのneも、この意味で用いられています。

### 4. yayunaske=an\_ayne

ayneは物語の展開上、「ある出来事の結果こうなった」、「ある状況が続いた後こうなった」という内容を語るのに用いられます。「ある出来事・ある状況」がayneの前の部分で表現され、「こうなった」にあたる内容がayneの後の部分で表現されます。

..._hike nea menoko muysapte usa ki _hum_as_a_hine asin_hine i=ahunke kusu...	…その女の子は掃除などを している様子がした後で 出てきた。私を家に招き入れたので…
...mokor_hene wa ray_hene wa an_=an_ayne inkar_=an kor kamuy rametok temnikor ka husko katu ne okay=an_awa	…眠ったのか死んだのか 目を遣ると 神の勇士の腕の中で 私は元の姿になっていて

## 文化的背景

アイヌ文学の主なものは、「一人称語り・自叙伝」の形で展開します。知里真志保先生の『アイヌ文学』によれば、それらは「語られるもの」と「語られるもの」の二つに大別され、前者をサコイエする(sa-ko-ye節・と共に・を言う)、後者をrucayeルチャイエ(またはrupayeルパイエ)する(ru-ca-ye半分・節・を言う)と言うようです。「語られるもの」の代表格はトウイタク(tuytak)と呼ばれる「人々の物語」で、語り手の認識としては節(melody)や折り返し(refrain)を用いないのが基本です。トウイタクという呼び名は旭川方言を含む北海道北東方言で用いられるもので、北海道南西方言ではウウエペケレと呼ぶのが普通のようなようです。

## MEMO

---



---



---



---



---



---



---



---



---



---

## 今日の単語

- ahupアフ【自動詞】入る。(反asin; 他ahunke) ; oske ne paye=an (中に行く)
- ayneアイネ【接続助詞】(～し) たあげく、(～し) て、(～し) たところ。; awa (～して)
- ekotaエコタ【副詞・助詞】そこへ、～へ。; an=kosikiru kor (そこに向かいながら)
- hokureホクレ【自動詞】急ぐ。; 【間投詞】さあ。; tunas (速くなる)
- hopuniホプニ【自動詞】起き上がる、立ち上がる。(反hotke; 複hopunpa) ; an=netopake an=rikinte (体を上げる)
- hotkeホッケ【自動詞】横になる、横たわる。(反hopuni) ; an=netopake an=ranke (体を下ろす)
- huskoフシコ【自動詞】古い、古くなる、[形容詞的に] 昔の、元の。; somo asir (新しくない)
- ipeイペ【自動詞】食事をする。(他e) ; 【名詞】食事。; anep an=e (食べ物を食べる)
- kamuynomiカムイノミ【自動詞】神に祈る。; 【名詞】神への祈り。; kamuy an=koonkami (神に挨拶する)
- katuカトゥ【形式名詞】姿、状態。; siri (様子)
- osisonオシソシ【場所名詞】右座、右側。; siso (右座)
- sattekサッテツ【自動詞】痩せる。(反kamus) ; kamsak (肉がない)
- sikaopasteシカオパッテ【他動詞】～に助けを求める。; un=kaopas sekor itak (助けてと言う)
- siriシリ【形式名詞】目で見えた様子、状況、天気、[文+siriの形で接続助詞的に] ～するようで。; 【名詞】大地、(地形としての) 山。; ene an=nukar katu (見える姿)
- uekarpaウエカラバ【自動詞】集まる。(類uekari; 他uekarire)
- yanヤン【文末詞】[文+] ～して下さい。; nep ka ki wa en=kore sekor itaka=an hi ta iyotta osi an=ye itak (～して下さいと言う時に最後にいう言葉)
- yupkepユッケケ【名詞】とんでもないこと (<激しいこと)。; an=homa p (恐ろしいこと)



# kampinuye 31 (sinep ikasma re hot): トウイタク(5)

カンビヌイエ シネフイカシマレホツ

orowano ne to teksama ta an puy an=ta kor  
 オロワノ ネットゥサマアンプイ アンタコロ  
 sine tuy ne yakka an=\_ama kor orowano tan  
 kotan ta  
 シネトウイネヤッカ アナマコロ オロワノ タンコタンタ  
 nep ka an= eranak pe isam sekor hawas.  
 ネッカアネラナッペ イサムセコロハワシ  
 ene\_an pe ne kusu  
 エナンペネクス  
 teeta kane puy ta katkemat  
 テエタカネ プイタカケマツ  
 sine tuy ka somo anu no puy ta kusu,  
 シネトウイカソモアヌノプイタクス  
 nani ponko kor\_nispa isam korka,  
 ナニポンコ コンニッパイサムコロカ  
 oka=an keray kusu nispa onunposo.  
 オカアンケライクス ニッパオヌンボン  
 tane wano okay utar, nep rataskep ta yakka  
 タネワノ オカイウタラ ネララタシケツ タヤッカ  
 sine tuka ka somo ama no opitta somo ta yan.  
 シネトウカカソモアマノ オピッタソモタヤン  
 ponno ne yakka ama yan!  
 ポンノネヤッカアマヤン  
 sekor Otasut un mat yayetuytak.  
 セコロ オタストゥンマツ ヤイエトウイタク

それから、その沼のそばにあるヤチブキの根を掘る時には、一本でも残すとそれからこの村に何も心配事がなくなったとのことだ。このようなことであるのでヤチブキの根を掘った奥さんはずっと一本も残さないでヤチブキの根を掘ったので、危うくその旦那を亡くすところだったが、私がいたおかげで村おさは生きのびた。これからの人は、どんな山の幸であろうと一本も残さないですべて掘らないでよ。すこしでも残してよとオタストゥの婦人が自分について語った。

## 👉 学習の要点

### 1. orowano

orowanoについては、kampinuye 29「学習の要点3」で学びました。しばしば、「それまで語られていた場面から別の場面に移ること」、「それまで語られていた状況が変化すること」を伝えるために用いられます。kampinuye 29で指摘したように、教科書本文で取り上げたトウイタクに見つかる三つのorowanoのうち、一つ目と二つ目はこの用法と考えられます。三つ目の言い直しとしても、「そして、それ以後」という意味の時間の表現とも解釈できます。

...sekor i=cinitare, orowano  
 an=kotanu peni un kotan an=koapkas,...

…と私は夢で知らされた。それから、私の村より上流にある村へ出かけて…

...orowano ne to teksama ta an puy an=ta kor  
 sine tuy ne yakka an=\_ama kor orowano tan kotan ta  
 nep ka an=\_eranak pe isam sekor hawas.

…それから、その沼のそばにあるヤチブキの根を掘る時には、一本でも残すとそれからこの村に何も心配事がなくなったとのことだ。

### 2. keray kusu

keray kusuについては、第二期の教科書のkampinuye 23「今日の構文」で学びました。[文…]+kusu+[文～]は、典型的に「…(する・した)から～(する・した)、…(する)ために～(する)」のように「原因・理由」または「目的」を表現するのに用いられる表現(第一期の教科書のkampinuye 8「今日の構文」)ですが、**kusuの前にkerayを伴うと単なる「原因・理由」でなく「恩恵・加護」という内容を表現することになります。**

ruyanpe as kusu ekasi ek eaykap.

雨が降ったからおじいちゃんは来られない(来られなかった)。「原因・理由」

kotan kar kamuy an keray kusu siknu=an.  
 e=an keray kusu nispa pirka.

国造りの神がいたおかげで、私は生き延びた。「恩恵・加護」  
 お前がいてくれたおかげで、主人も元気になった。「恩恵・加護」

また、これもkampinuye 23で既に指摘しましたが、kamuyなど特定の語に限ってkeray kusuの前の[文]の位置で用いることが出来るようです。この例は、kamuy an keray kusuのanが脱落した形とも解釈出来ます。また、次にあげたようにkeray kusu単独で「そのおかげで」という意味の副詞句として用いられている例も散見されます。

totto takenoko eiyok wa amam hok wa keray kusu ipe=as.

母が筍を売り、米を買って、そのおかげで私たちは生活していくことが出来た。  
 私(沼貝)を(御幣の間に)置いたよ。そのおかげで私は生き延びられたよ。

i=ama na. keray kusu siknu=an na.

### 3. tane wano okay utar

tane wano okay utarは、文字通りには「これからいる人たち」程度の意味になりますが、物語の最後の部分で語り手が「教訓」のようなもの述べる際に用いられる表現です。語りかける相手によっては、tane wano okayの後の部分がutarではなく～kamuyなどとなる場合もありますし、また単にtane wano「これから(は)…」のように語り掛けられる場合もあります。

... "tane wano okay utar anakne  
 kimun yakka sinen ne nep ka  
 unu ka tura ka somo ki sinen ne  
 apkas kor an eper  
 eciki es=kay ya" sekor

…「これから暮らす者達は山に入っても一匹で何か母も伴わずに一匹で歩いている小熊は決して背負ってはいけなよ。」と川下の紳士が自らの身の上話をした。

tane wano okay sipase kamuy  
 ecikki aynu kotan wente na  
 sekor oyna kamuy pon turesi  
 yayetuytak \_hawan

これからの偉い神よ決して人間の村を荒らすなよとオイナ神の末娘が身の上話をしたそうだし、決してこれから何をしても負けるなと神の子孫である女が身の上話をした。

pani un nispa yayetuytak

### 4. yayetuytak

kampinuye 27「文化的背景」で紹介したように、アイヌ文学の主なものは「一人称語り・自叙伝」の形で展開します。トウイタク(tuytak)と呼ばれる人々の物語は(オイナ(oyna)と呼ばれる神々の物語も)、**最後は「語り手が自分のことを語りました」という表現で結ばれます。yayetuytakというのはこの「自分のことを語る」という意味の表現の一つです。**他にも、yayeisoitakやyayeyukarなどがあります。手元の資料を見る限り、トウイタクだからyayeisoitakでもyayeyukarでもなくyayetuytakで結ばれるというわけではないようです。

kamuy menoko  
 yayetuytak

神の女性は身の上話をした。

\_hawe an na. sekor Petkitay  
 un nispa ponpoho  
 yayeisoitak.

話をしたのだとペッキタイの金持ちの年下の息子が自らの身の上を語った。

oyna kamuy pon turesi  
 yayetuytak \_hawan

オイナ神の末娘が身の上話をしたそうだし

cup or\_us kur unuhu  
 yayeyukar

月にいる者の母が身の上話をした。

sekor okikurmi kamuy rametok  
 yayetuytak.

とオキクルミ神の勇士は自らの身の上話をした。

sekor kamuy sasusyr  
 menoko yayeyukar.

と神の子孫である女が身の上話をした。

nispa katkemat yayetuytak.

金持ちの妻が自ら語った。

## 👉 今日の構文

### na(a)ni (ponko) + [文]

naniは「すぐに」という意味の副詞として用いられるのが一般的ですが、「もう少しで～するところだった(が危うくそうならなかった)」という意味でも用いられることがあります。その場合、naaniナア二のように発音されることが多く、また稀にですがnaniの後にponkoが用いられることもあるようです。

nani nitne kamuy orowa  
 i=e=an korka

もう少しで化け物に私は食べられるところだったが

ku=merayke. mata epitta  
 sonno naani ku=meun.

私は寒かった。冬中、本当に凍死しそうになった。

...naani kunnano  
 \_hopunpa=an\_hine...

…もう少しで夜が明けるころ起き上がり…

## 📖 今日の単語

anu アヌ【他動詞】～を置く、～を残す、取っておく。(類 ama) : an=ama (～を置く、～を残す)  
 eranak エラナク【他動詞】～について心配する。 : an=nisomap (心配する)  
 isam イサム【自動詞】ない、いない、なくなる、いなくなる、亡くなる。(反 an, okay) : katu sak, tum sak (姿がない、体がない)  
 keray ケライ【副詞】[文+keray kusuの形で] (～する・した) おかげで。 : [iki keray kusu] ene kiroroan hi iki kusu (嬉しいことに～ので)  
 korka コロカ【接続助詞】(～する・した) けれども。 : [iki +] iki p ne yakka (～するのだとしても)  
 mat マツ【名詞】妻、女。(反 nispa) : hoku kor mat (夫を持つ女性)  
 nani ナニ【副詞】すぐ、まもなく、[nani ponkoの形で] 危うく～するところであった。 : moyre somo ki no (遅れることなく)  
 ne ネ【形容詞】その。既に前の文脈で表現された。 : hoski no an=ye (前に言われた)  
 nep ネット【代名詞】何、何か。通常は人間以外のものの素性を問う表現だが、時に nep ka「何か・何も」と同様の意味で用いられる : nep an=e rusuy nep an=kor rusuy pe isam (食べたい、欲しいものは何もない) : nekon an pe (どのようなもの)  
 onunposo オヌンボン【自動詞】生き延びる。(反 ray; 類 siknu) : somo ray no an (死なずにいる)  
 ponko ポンコ【副詞】[nani ponkoの形で] 危うく～するところだった。 : naani (もう少しで～するところだった)  
 ponno ポンノ【副詞】少し。(反 poro) : somo poronno (多くない)  
 rataskep ラタシケツ【名詞】山の幸、ご馳走。(類 ipe, anep) : pirka ipe (立派な食事)  
 teeta テエタ【名詞・副詞】昔。(反 tane) : husko toy (古い昔)  
 teksama テッサマ【位置名詞】(～の) すぐ側、(～の) 手もと。 : an=temtem easkay hi (～が手探り出来るところ)  
 tuka トッカ【助数詞・形式名詞】～本。 : tuy (～本)  
 yayetuytak ヤイエトウイタク【自動詞】自分について語る。(類 yayeisoitak) : yayeisoitak=an

# kampinuye 32 (tup ikasma re hot): 地名(1)

カンビヌイエ トゥワイカシマレホッ

<b>A: tan riwka ka an=kus nankor_na.</b> タンリウカカ アンクシナンコンナ	この橋渡るんだよ。
<b>B: ku=sitoma.</b> クシトマ	怖あい。
<b>C: ku=kopan.</b> クコパン	やだあ。
<b>D: hempano arki. Kamuykotan ne kusu iyaykipte.</b> ヘンパノアラキ カムイコタンネクスイヤキプテ	早く来い。神居古潭だから危ないぞ。
<b>yayeyam no apkas_hani.</b> ヤイエヤムノアッカサニ	気をつけて歩けよ。
<b>E: Kamuykotan sekor an pe ne kusu nep ka kamuy an ruwe?</b> カムイコタンセコランペネクス ネッカカムイアンルウェ	カムイコタンで言うんだから、何かカムイが住んでるの。

## 📖 学習の要点

### 1. nankor na

nankorは、話し手が自ら(を含む人物)の行為について言う場合、『自分の経験や知識から判断して』自分はそうしようと思うことと、話し手が自分以外の人物の行為について言う場合は『話し手が「自分の経験や知識から判断して」未来に実現あるいは判明すると思う状況』を表現するのに用いられることをkampinuye 15「学習の要点2」で学びました。それに対して**naは、文の最後で用いられて「文の内容を確認する(念を押す)」、**「聞き手に対する親しみの念を加える」など、**話し手が聞き手に対して何らかの心動的な動きかけをしていることを意味し、日本語では「～(だ)よ」や「～(だ)ぞ」、「～(だ)からな」**のように訳されることが多いことをkampinuye 14「学習の要点2」で学びました。

ku=hosipi na. 私は帰るぞ。  
es=koinkar=an na. 私はお前たちを見守(ってい)るよ。

これらnankorとnaが共に用いられて、未来に実現するか存在が判明する状況を「念を押して」または「聞き手に親しみの念を込めて」伝えるのがnankor na(普通ナンコンナと発音)です。

### 2. tan riwka ka an=kus

kusは「～を通る」という意味の他動詞で、通るところを意味する表現(本文では「あの橋」)を目的語に取るのですが、どんな名詞でもこの目的語になれるわけではないようです。既にkampinuye 28「学習の要点3」で学んだ**peni ya paerupsiのような名詞**(これらはkampinuye 33「学習の要点2」で学ぶように「場所名詞」と呼ばれます)または同じくkampinuye 28「学習の要点3」で触れた**ka, corpok, soy, oskeのような名詞**(これらはkampinuye 33「学習の要点2」で学ぶように「位置名詞」と呼ばれます)の**どちらかしかkusの目的語として用いることは出来ないようです**。ですから、アイヌ語で「橋を渡る」と表現する際には、「橋」という普通の名詞(場所名詞でも位置名詞でもないもの)を直接に目的語として用いた**riwka kus**という言い方は**しません**。**riwka ka kus**のように**ka「上」という語を加えて「場所としての存在として表現しなければなりません**。riwka corpok「橋の下」を渡る人は通常いないので、意味的から見ればkaは余分に思われるかもしれませんが、これはアイヌ語の文法で決まっていることなので無視するわけにはいきません。日本語では、これほど厳しく「場所としての存在」とそれ以外の存在を区別する文法は働いていないようですが、それでも「彼は私のところに来た」とは言えても「彼は私に来た」とは言えません。『ところ』という語を加えて「場所」として表現してからでなければ、『に』の目的語になれません。その点、英語ではHe came (up) to me.といっても問題がない点で、さらに「場所」としての存在とそれ以外の存在の文法区別はうるさくないのかもしれない。

### 3. sitoma; kopan

**sitomaは「～を怖がる・恐れる」、kopanは「～を嫌がる・避けたがる」程度の意味を表す他動詞です。従って、これらが用いられた場合は、決まって先行する文脈に「怖いもの」、「嫌なもの」が表現ないしは含意されていることとなります**。本文の会話では、tan riwka ka an=kus nankor\_na「この橋渡るんだよ」という文が先行していますので、ne riwka ka an=kus hi「橋を渡ること」、ne riwka「橋」、ne riwka corpok ta an pet「橋の下を流れる川」をsitomaしていると解釈できます。また、kopanの目的語にはne riwka ka an=kus hi「橋を渡ること」が該当すると考えられます。それに対して、isitomaという自動詞もあって、こちらが用いられた場合は、具体的に「～が怖い」と言えなくても使うことができます。「～を嫌がる」を意味する表現には他にもetoranneなどがありますが、etoranneは「怖がる・恐れる」というよりも「～を面倒に思う」というニュアンスが強いようです。

## 👉 今日の構文

### ...sekor an

sekorは、第二期教科書のkampinuye 18「今日の構文」で学んだように、itak「言う」やyaynu「思う」の前で用いられて「言った内容」、「思った内容」を導きます。これらitakやyaynuの違いを捨象したより抽象的な表現がanで、「～という」くらいの意味で理解されます。この場合、必ずしも「言う」わけではなく、「言葉にすれば～である」くらいの意味です。日本語でも、『今日という日に』、『あっという間に』、『何ということだ』のように『～という』という表現は、必ずしも「言う」ことが前提となっていなくても使われます。

\_hetak hopunpa yan 早く起きて下さい  
sekor an\_hike と声がして、今度は

さらに、～sekor anで表された「～という」内容を「こと」として名詞化するために(言い換えれば主語や目的語として用いることが出来るようにするために)-pe「もの・こと」のような語尾(形式名詞)が加えられます。

ne kamuy menoko ran\_wa 神の女が降りてきて  
tura sinot\_=an sekor an pe 一緒に遊んだということは  
ka an=\_ ye ka somo ki. 一言も言わなかった。

...e=easkay nankor na. …お前はきちんと出来るようになるぞ。  
sekor an\_pe patek ということばかり  
i=ehumkekar kor... 兄が私に言い聞かせながら…

## 📁 文化的背景

**カムイと名の付く地名:** 知里真志保先生の『地名アイヌ語小辞典』によれば、kamuyという語は「神」を意味する一方で、古くは「魔」を意味したそうです。そのため、kamuy nupuri「神の山」やkamuy sir「神の山」(いずれも霊峰)、kamuy to「神の湖」(神の山にある(と伝えられる)神秘的な湖)、kamuy usey「神の湯」やkamuy tompuri「神の風呂」(いずれも温泉のこと)のように良いもの・望ましいものを指すこともあれば、kamuy utka「魔の瀬」(川の中に岩礁があって水が奔騰するような交通上の難所)、kamuy simpuy「魔の水穴」(山中の険しい崖の上にある水の湧く穴)のように危険で必ずしも望ましくないものを指す場合もあります。同辞典によると、kamuy wakkaも同様に「神の水」の意から「飲用に適する清らかな湧水」を指すこともあれば、「魔の水」の意から有毒成分を含み「飲用に適さない危険な水」を指すこともあるようです。前者は北海道西部に多く、後者は北東部に多いそうです。kamuy kotanという地名も、このように「望ましい・素晴らしいところ」という意味の他に、「危険なところ」という意味にもなるようです。同辞典でこの語を引くと、「(人間の世界に対する)神の世界」の他に「(この世に対して)あの世」、「魔界」とも書かれています。このように、kamuyと名の付く地名にはしばしば「望ましい・素晴らしい存在」と「危険な存在」の二つの意味の可能性があるので注意が必要です。本文に出てくる神居古潭は、歴史的には「魔物の棲む危険な場所」と考えられてきたようですが、その危険から人命を守るために定期的に水の神に祈りを捧げるようになってから「水の神が守ってくれている場所」と考える人も増えてきたようです。なお、「魔物の棲む危険な場所」の意味でkamuy kotanと名付けられた場所は、他にもタ張や小樽など道内あちこちにあるようです。

## 📖 今日の単語

apkas アッカシ【自動詞】歩く。:huyuppa=an ka somo ki no paye=an(走らずに行く)  
arki アラキ【自動詞】[複数の人・物が]来る。(複ek):or ta itak kur newa inu kur okay hi kohanke(話し手と聞き手のいるところへ近づく)  
hani ハニ【文末詞】(主に目下のものに対して)(〜し)なさい、(〜する)んだよ。(類na):an=pawetenke hi ta iyotta osi an=ye itak(指図したりする時に最後に言われる言葉)  
hempano ヘンパン【副詞】早く。(類hokure):somo moyre=an no(遅れずに)  
iyaykipte イヤイキプテ【自動詞】危ない。:【副詞】危ない。:samake ta oka=an yakun piroma=an, arka=an, ray=an kotom an(〜の近くにいると怪我をしたり、病気になったり、死んだりしそうだ)  
Kamuykotan カムイコタン【地名】神居古潭(カムイコタン)。石狩川の中流域と上流域を隔てる渓谷。近代に至るまで有名な交通の難所の一つで、事故が後を絶たなかった。旭川まで鉄道が通じてから昭和40年代までは同名の駅があったが、新線建設で線路はトンネルを抜けることになったため廃駅となった。駅舎は復元されており、旧国道から駅跡へは神居大橋を渡らねばならない。新国道はトンネルを抜けるため、旧道を回らなければ神居大橋を見ることは出来ない。  
kopan コパン【他動詞】～を嫌う、～を避けたがる。(類etoranne, kiumwen):samake ta isam=an no oka=an rusuy(〜の側にいないでいたい)  
ku=ク【人称接辞】[+動詞]私(が〜する)、[+名詞]私(の〜)。:itak kur iki sekor an moymoykeitak etoko us(話し手が何かするという動詞の前に付く)  
kus クッ【他動詞】～を通る。:peka paye=an(～を通る)  
riwka リウカ【名詞】橋。話者によってはruykaルイカと発音する場合もある。同じような例は、puyarとpuray(窓)などにも見られる。:pet kama ru(川をまたぎ越す道)  
ruwe ルウェ【形式名詞】[文+] (〜する・した)の。:[文末詞的に用いられて] (〜する・した)の。:an=eraman pe(知っていること)  
sitoma シトマ【他動詞】～を恐れる、～を怖がる。(目isitoma):an=homa sekor yaynu=an(〜が恐ろしいと思う)  
yayeyam ヤイエヤム【自動詞】気をつける。:yaytupare=an kuni iki=an(無事であるようにする)



# kampinuye 33 (rep ikasma re hot): 地名(2)

カンピヌイエ レファイカシマレホツ

<b>E: Kamuykotan sekor an pe ne kusu nep ka kamuy an ruwe?</b> カムイコタンセコランペネクス ネッカカムイアンルウェ	カムイコタンと言うんだから、何かカムイが住んでるの。
<b>D: kamuy ne korka wen kamuy, nitnekamuy ne kusu kamuy ne korka wen kamuy, nitnekamuy ne kusu an=homa p ne ruwe ne.</b> アンホマッネルルウェネ	カムイとは言っても悪いカムイ、ニチネカムイだから、恐ろしいんだよ。
<b>F: nean nitne kamuy na an_ya?</b> ネアンニツネカムイ ナアンヤ	そのカムイは今でもいるの。
<b>D: teeta wen_hike patek ki kor an korka Samayekur an wa</b> テエタウェニケバテッキコランコロカ サマイエクルアンワ <b>kotumikor ayne tametuye wa okere.</b> コトゥミコライネ タメトウイエワオケレ タアンヌブリカタ	昔、(ニチネカムイは) 悪いことばかり、してただけどサマイクルがいて、戦いを挑んで、ついには切り殺しちゃったの。
<b>taan nupuri ka ta Samayekur an_wa kusu Samayekur inkar casi sekor rean ruwe ne.</b> サマイエクルアンマクス サマイエクリンカラチャッ セコンレアンルウェネ	あの山の上にサマイクルがいたんで、サマイクル・インカラ・チャシって言うわけ。

## 📖 学習の要点

**1. wen kamuy, nitnekamuy ne kusu**  
wen kamuy, nitnekamuyは、文字通りに意味を取ると「悪い神、ニチネカムイだから」となりますが、これに対応する自然な日本語は「悪いニチネカムイだから」です。アイヌ語では、一つの名詞を複数の修飾語で修飾する際、修飾語+修飾語+名詞のように二つの修飾語をその名詞の前に並べるのではなく、修飾語+名詞、修飾語+名詞のように名詞を修飾語の数だけ繰り返すよことが多いようです。nitnekamuyは既にひとかたまりと捉えられて固有名詞のようになっていますが、nitneが本来「固い」という意味の自動詞であることから「悪い固い神」のような内容になっているとも解釈できます。この場合、wen nitne kamuy「悪い・固い・神」とせずに、「悪い・神、固い・神」のように表現するのがアイヌ語的ということになります。次の例は、それぞれ「健やかで穏やかな成長が出来るよう」、「醜く悪い狼よ」の日本語に対応します。

...iwanke sukup ratci sukup ki easkay kuni...	…健やかな成長 穏やかな成長が 出来るように…	...sirun horkew wen horkew...	…醜い狼、 悪い狼よ…
---	-------------------------------	----------------------------------	----------------

また、一つの修飾語が二つの名詞を修飾する場合も、修飾語+名詞+名詞という形も使われず、名詞の数だけ修飾語を繰り返す修飾語+名詞、修飾語+名詞の形が用いられます。

...u pirka itanki u pirka otcike ci=uroreasi hine...	…良いお椀 良いお膳を きれいに並べ…	...pirka nupuri pirka sankenay...	…美しい山や 美しい大きな沢が…
--	---------------------------	--------------------------------------	---------------------

さらに、次に例示した修飾語+名詞がさらに別の名詞を修飾する (修飾語+名詞1) + 名詞2のような構造も避けられるようです。「立派な・宝の・祭壇」とせずに、「立派な宝・宝の祭壇」のような修飾語+名詞1、名詞1+名詞2の形が用いられます。

...pirka ikor ikor ikkew an=uk kuni...	…立派な宝 宝の祭壇 を取ってやろうと…	...pirka nitay nitay corpok pirka mun etuk wa...	…立派な林の 林の下の方に 立派な草が生えていて…
--	----------------------------	--	---------------------------------

**2. taan nupuri ka ta**  
kampinuye 28「学習の要点3」では、ka「上」、corpok「下」、soy「外」、oske「中」が直前に別の要素を伴ってそれぞれ「~の上」、「~の下」、「~の外」、「~の中」となるように、peniも同様に、前に要素を伴って「~の上流」という意味になることを学びました。taan nupuri ka taのkaは正にこの用法の例です。ka「上」、corpok「下」、soy「外」、oske「中」などの名詞は、「私の上」、「私たちの下」のような表現を作る際、ku=やan=のような形（「主格の人称接辞」と呼びます）ではなくen=や

un=という形（「目的格の人称接辞」と呼びます）を用いる点で注意が必要です。このような名詞を「位置名詞」と呼んでいます。それに対して、同じ場所を意味する名詞でも、peniやpaerupsiなどは「~の」という表現を形成するためにku=やan=のような「主格の人称接辞」を用いる（か、あるいは人称接辞単独ではなくku=kor、an=korを用いる）点で位置名詞と異なります。このため、**区別して「場所名詞」と呼ばれます。**

●ku=ka ta en=ka ta 私の上に（位置名詞）  
an=paerupsi ta ●un=paerupsi 私（たち）の枕元に（場所名詞）

いわゆる地名は、前に別の名詞や人称接辞を取って「~のどこどこ」という言い方はしないのが普通です。このように人称接辞自体を取らないものは、場所名詞として扱われます。

**3. wa kusu (cf. kusu)**  
kusuに関しては、文…+kusu+文~の形で「…（する・した）から~（する・した）」（原因・理由）または「…（する）ために~（する）」（目的）を表現するのに用いられることを第一期の教科書のkampinuye 8「今日の構文」で学びました。（また、第二期の教科書のkampinuye 23「今日の構文」（及びkampinuye31「学習の要点2」）で学んだように、kerayを伴って「恩恵・加護」を意味します。）

ruyanpe as kusu ekasi ek eaykap. huci sinewe kusu ek. oka=an keray kusu nispa onunposo.	雨が降ったからおじいちゃんは来られない（来られなかった）。（原因・理由） おばあちゃんが遊びに来た。（目的） 私がいとおかげで村おさは生きのびた。
---	---

つまり、kusuは単独で用いられた場合「原因・理由」と「目的」の解釈の二つの可能性があることにはなりますが、kusuの前にwaが用いられるとwaの意味から（これについてはwaの意味を参照）wa kusuの前の文の表す状況が既に済んでいることを意味するため、「目的」の解釈の可能性はなくなります。

kuani ku=wen wa kusu unarpe katu an=kor katu ne sir_an an=kor hawowen wa kusu cis=as kor	私は具合が悪いので 私の姿がおばさんの姿になったようで 私の声もひどいので泣いていると
--	---

## 📁 文化的背景

**サマイクル、オйнаカムイ（国造りの神）**：知里真志保先生によれば、サマイクルは人間の始祖となる巨大な神で、人間の国を造ったと信じられているためkotan kar kamuy（あるいはkotan kar kur）「国・を造った・神」とも呼ばれます。サマイクルという名は、samayekur < samay-ye-kur < saman-ye-kur「信託・言う・者」に由来すると説明されます。samanは日本語にも入っている「シャーマン」に当たる（恐らくはツングース系の言葉からの）借入語のようで、サマイクルはこの語釈が意味するように神霊を受けて信託を告げる能力を持っていたと考えられているようです。また、サマイクルはoyna kamuyという名で呼ばれることもあるようです。これは、同じく知里先生の説明に基づけば、通常「謡う」のような意味で用いられるoynaという語が、本来、神霊を受けて信託を告げる行為を指したことに由来するそうです。北海道の南西方言では、同じ神がオキクルミあるいはオキキリムイなどと呼ばれているようです。そのような方言では、サマイクルに当たる名前（サマユンクルなど）も登場することがありますが、それらは大概脇的な存在で、北海道北東方言でのサマイクルとは必ずしも一致しない存在のようです。このことから見ても、サマイクルという語の出自は、南西方言ではなく北東方言だと考えるのが妥当であるとする考えを知里先生は提案されています。

## 📖 今日の単語

<b>casi</b> チャシ【名詞】 <b>砦</b> 。伝説の主人公の住みか、館。: or ta kamuy ne an kur an hi (神なる人の住むところ)
<b>hike</b> ヒケ【形式名詞】 <b>【動詞+】</b> (~な)ほう、(~な)もの・こと。: -p(e) (~な)もの
<b>homa</b> ホマ【他動詞】 <b>~を恐れる</b> 。: an=sitoma (~を怖がる)
<b>ki</b> キ【他動詞】 <b>~をやる</b> 。(類kar):【動詞句+】(~)する。: nep ka moy moyke an=kar (何か動きをする)
<b>kotumikor</b> コトゥミコ【他動詞】 <b>~に戦いを仕掛ける、~を攻撃する</b> 。: tura ukoiki=an (~と喧嘩する)
<b>na</b> ナ【副詞】 <b>まだ、もう</b> (~個)。: moyre kane (遅く)
<b>nean</b> ネアン【形容詞】 <b>その~</b> 。既に前の文脈で表現された~。: hoski no an=ye (前に言われた)
<b>nitne</b> ニツネ【自動詞】 <b>固い</b> 。(反riten, apur, 類niste): somo ritene (柔らかくない)
<b>nitnekamuy</b> ニツネカムイ【名詞】 <b>ニチネカムイ、ニツネカムイ</b> 。悪神。: wen kamuy (悪い神)
<b>nupuri</b> ヌプリ【名詞】 <b>山</b> 。(類sir, kim): nupurpe kor pe oma sir (霊力持つものがある山)
<b>rean</b> レアン【他動詞】 <b>【名詞sekor+】</b> ~が(~と)呼ばれる。: rehe ...ne (名前は~だ)
<b>Samayekur</b> サマイエクル【名詞】 <b>サマイクル</b> 、サマイエクル。他の地方ではサマユンクル(Samayunkur)とも言う。人間の始祖となる巨大な神で、国造りの神とも呼ばれる。旭川では通常伝説の主人公で、それに対してオキクルミが悪い役回りをする。北海道南西方言ではこの関係が逆になる。
<b>taan</b> タアン【形容詞】 <b>その、あの</b> 。話し手と聞き手のいる場所(「teテ」や「teorテオロ」で指し示される場所)の外にある。(toanとの対比で)比較的近いと話し手が思う。(反tan, toan): 「te, teor」soyke ta an, or ta itak kur inu kur tura an hi soyke ta an pe (toanpe akkari hankeno an) (「ここ」の外にある、話し手と聞き手のいるところの外にある [toanよりも近くにある])
<b>tametuye</b> タメトウイエ【他動詞】 <b>~を刀で斬る、~を退治する</b> 。: tam ani an=rayke (刀で殺す)

# kampinuye 34 (inep ikasma re hot): 地名(3)

カンピヌイエ イネナイカシマレホツ

<b>G: taani sonno oho kotom siran.</b> タアニソンノオホコトムシラン	あそこ、凄く深そう。
<b>D: Paramoy ne. teeta anakne nean_hi pakno atuy an wa</b> パラモイネ テエタアナッネ ネアニパクノアトゥイアンワ	パラモイだな。昔は、そこまで海があって、
<b>pencay ek_hine ne or wa cihoki an=yanke yak an=ye.</b> ペンチャイエキネ ネオロワ チホキ アイヤンケヤカイエ	弁財船がやって来て、そこから荷物を下ろしたんだと。
<b>neanpe kusu Sikeuspa sekor an=rekore.</b> ネアンペクス シケウシパ セコランレコレ	それで、シケウシパって呼ばれてんの。
<b>B: A, kisa an.</b> ア キサアン	あっ、汽車がある。
<b>A: taanpe husko kisaeratkcise ne. kisaru asir wa</b> タアンペフシコキサエラッキチセネ キサルアシワ	あれは昔の駅なの。線路が新しくなって
<b>tane anakne kisa otoyposoru kus ruwe ne.</b> タネアナッネ キサオトイポソルクシルウエネ	今はトンネルを通っているのよ。

## 学習の要点

### 1. oho kotom siran

sir(i)という語は、それ自体で「大地、山、島」や「(目で捉えられた)様子、天気、状態」のような意味を持つ一方で、**文**+sir+ne/anの形で「文で表現される内容を話し手は視覚を通して認識した」ということを伝える表現を形成し、日本語ではしばしば「～しそうだ、～するようだ、～したようだ」のように訳されることを第一期教科書のkampinuye 11「学習の要点3」で学びました。oho kotom siranもそのような用法の一例です。ここでは、文の代わりに**文**+kotomの形がsiranの前に用いられて「～しように、～するように」のような意味を表しています。sir+anは寧ろ文字通りsir(様子)an(がある)のように解釈されるため、しばしば一語でsiranと綴られます。けれども、sir anを一語で綴るか、二語として扱うかは今のところ決まっています。

### 2. pencay ek\_hine...an=yanke

**文**～+**hine**+**文**…は、「～して…する」という「二つの出来事の連鎖、継起性」を意味する表現です。「二つの出来事の連鎖、継起性」を意味するという点では、waやawa、hike、ayneも類似しています。けれども、**文**～+wa+**文**…は典型的に**文**～が表す出来事が済んでから**文**…が表す状況が成立することを意味し(kampinuye 5「今日の構文」を参照)、**文**～+awa/hike+**文**…では**文**…が物語の中できっかけとなる出来事や事件の描写で、文～はそれが起こるまでの状況を略述する(kampinuye 27「学習の要点1」を参照)点でhineとは異なります。また、**文**～+ayne+**文**…は「ある出来事の結果こうなった」、「ある状況が続いた後こうなった」という内容を語るのに用いられ、**文**～が「ある出来事・ある状況」を、**文**…が「こうなった」にあたる内容を表す(kampinuye 30「学習の要点4」を参照)という点でやはりhineとは異なります。

### 3. kisaru; kisaeratkcise

kisaru「線路」は、kisa「汽車、列車」とru「道」から作られた新語です。鉄道をはじめとする近代的・現代的交通手段は伝統的なアイヌ文化には存在しません。そこで、今後アイヌ語を何らかの形で日常的に用いていくためには、これらのに関連する語を改めて用意していく必要があります。鉄道に関する用語として意識的に作られた語には、kisaeratkciseキサエラッキチセ「駅・停車場」(<kisa-e-ratki-cise列車・そこに・止まる・家)、tunas kisaトウナシキサ「急行」(<早い・列車)、kisa kampaキサカンピ「切符」(<列車・紙)などがあります。これら名詞以外にも、「乗る」、「降りる」、「乗り換える」、「清算する」、「予約する」などの動詞を確定しなければなりません。教科書の本文では、便宜上「(cipやsinta)に乗る」を意味するoを「～に乗る」として用い、今日の単語のkisaeratkciseのアイヌ語による説明では試みにor wa ratkiを「～から降りる」という意味の表現として用いています。これらはまだ決まった言い方として定着していません。大切なことは、伝統的な事柄に加えて、多くの人々がこれら近現代的な事柄についてアイヌ語で語り、書き綴っていくことです。もちろん、ここで使ったものとは異なる表現が意識的に作られるかもしれません。そうして盛んに使われていく中で、それら新語というものは淘汰され、より適切な表現が生き残っていくというのが言語として自然なありかたです。

### 4. asir

asirは、しばしば「新しい」という意味で用いられる自動詞です。同様な意味を表す語を形容詞と呼ぶ言語も少なくありません。アイヌ語で、この語が形容詞ではなく自動詞と呼ばれる大きな理由は、「新しい」という状態的な意味だけでなく「新しくなる」という動作的な意味を表すことも出来るからです。同じようなことは、日本語で形容詞と呼ばれる語に対応する他のアイヌ語の自動詞にも当てはまります。

poro「大きい、大きくなる」、pon「小さい、小さくなる」、tanne「長い、長くなる」、takne「短い、短くなる」、retar「白い、白くなる」、kunne「黒い、黒くなる」、hure「赤い、赤くなる」、siwnin「青い、青くなる」、pirka「良い、よくなる」、wen「悪い、悪くなる」…

## 5. otoyposo

otoyposoru「トンネル・隧道」(<otoyposo-ru土を通り抜ける・道)も意識的に作られた新語です。仮にタイムマシンのようなものが実現したとして、アイヌ語が日常的に話されていた時代に行ってもこのような語を使ったところを通じるかどうかは分かりませんが、それは言葉の問題というよりもそもそもトンネルという概念が存在するかどうかの問題かもしれません。この意味では、本課の「学習の要点3」でも述べたように、伝統的な事柄に加えて、多くの人々がこれら近現代的な事柄についてアイヌ語で語り、書き綴っていくことが肝心です。但し、トンネルを安易にtonneruとしてしまうよりは、ここでみたotoyposoのようにアイヌ語の語構成、文法といったものにある程度は従って新語を考案していくという姿勢も大切です。なお、トンネルは多く土よりも岩を通り抜けるに違いはないと考えれば、toy「土」という語の代わりにsira「岩」をいれてosirarposoruでも良いでしょうし、nupuri「山」を抜けると考えればonupuriposoruでも構わないかもしれません。いずれを用いるにしても、盛んに用いていくこと自体が必要です。そうすれば、それらはいずれ淘汰され、より望ましい表現が生き残っていくはずですよ。

## 言葉をもう少し詳しく

**発音の変化:**他の言語(や方言)でもしばしば観察されることですが、アイヌ語旭川方言では比較的早口で話す際、母音が縮約されたり子音が前後の音に影響されるなどして発音が変わることがあります。例えば、ne yakkaなどは/e/と/y/が縮約・脱落してしばしば/nakka/と発音されます。また、asin hineやokay=an hikeのhが脱落して/asinine/や/okayanike/のように発音されます。このように、音の変化が生じること表すために変化が生じる語の連鎖部分に下線\_が用いられます(例:ne\_yakka, asin\_hine, okay\_=an\_hike)。このような表記法は、奥田統己先生が最初に考案され、それを手本にして旭川方言でも用いられるようになったもので、本講座の教科書でも採用されています。旭川方言に見られる主な発音の変化を以下に例示しました。

nekon_an... /nekonan/	どんな…	n_a → na
...an_ya /ana/	…あるの?	n_ya → na
nukar_yan /nukaran/	見てください	r_ya → ra
ku=kor_turesi /kukotturesi/	私の妹	r_t → tt
an=kor_cise /ankotcise/	私たちの家	r_c → tc
pon_su /poyasu/	小さな鍋	n_s → ys
...ku=kor_rusuy /kukonrusuy/	私は…が欲しい	r_r → nr
...nankor_na /nankonna/	…んだぞ	r_n → nn
...yak an=_ye /yakayye/	…だそうだ	n_y → yy
oka=an_wa... /okaamma/	私たちはいて…	n_w → mm
...an=_wente /awwente/	私たちは…を駄目にした	n_w → ww

## 今日の単語

- asir アシリ【自動詞】新しい、新しくなる。(反husko):somo husko(古くない)
- atuy アトゥイ【名詞】海。:repu mosir ekota paye=an kusu an=kus poro wakka, sippo oma ene an poro wakka。(外国へ行くために通る大きな水、塩の入ったそのような大きな水)
- cihoki チホキ【名詞】品物。:an=eiyok pe, an=hok pe(売るもの、買うもの)
- ek エツ【自動詞】来る。話し手と聞き手のいる場所に近づく移動をする。(複arki):or ta itak kur newa inu kur okay hi kohanke(話し手と聞き手のいるところへ近づく)
- kisa キサ【名詞】汽車、列車。:kani ru ka kus anop(鉄の道を通る乗り物)
- kisaeratkcise キサエラッキチセ【名詞】駅、駅舎。:or ta kisa ratki wa an=o, or wa ratki=an hi(汽車が止まり、人が乗り降りするところ)
- kisaru キサル【名詞】線路、鉄路。:kisa kus ru oma tanne noka, kani ani an=nuye noka(汽車の通る道にある長い線、鉄で描かれた線)
- neanpe ネアンペ【代名詞】それ。既に前の文脈で表現されたもの。:hoski no an=ye p(前に言われたもの)
- onupuriposoru オヌプリポソル【名詞】トンネル。:nupuri oske kus ru(山の中を通る道)
- oho オホ【自動詞】深い。(反ohak; 類rawne):somo ohak(浅くない)
- Paramoy パラモイ【地名】パラモイ。「広い入り江」程度の意味。神居古潭に掛かる神居大橋の下流側にある深み。
- pencay ペンチャイ【名詞】弁財船、貨物船。(類cip):cihoki an=omare cip, poro cip(品物を積む船、大きな船)
- rekore レコレ【他動詞】[名詞sekor+]～を(～と)名付ける、～を(～と)呼ぶ。:re an kuni iki=an(名前があるようにする)
- Sikeuspa シケウシパ【地名】シケウシパ。「荷を背負うところ」程度の意味。神居古潭に掛かる神居大橋の下流側、石狩川左岸の岩置のあたり。
- siran シラン【自動詞】[文(kotom)+]～のようだ。:siri an=nukar(～な様子が見える)
- taanpe タアンペ【代名詞】それ、あれ。話し手と聞き手のいる場所(「Teテ」や「Teorテオロ」で指し示される場所)の外にあるもの。(toanpeとの対比で)比較的近いと話し手が思うもの。(関tanpe, toanpe):te, teor soyke ta an pe, or ta itak kur inu kur tura an hi soyke ta an pe(toanpe akkari hankeno an pe)(「ここ」の外にあるもの、話し手と聞き手のいるところの外にあるもの[taanよりも遠くにあるもの])
- taani タアニ【場所名詞】(<taan hi)あそこ。(類):te akkari tuyma hi(ここよりも遠い場所)
- wa ワ【助詞】[位置名詞・場所名詞+]～から。:[普通名詞・人称接辞 or +]～(～のところ)から。(特定の表現で)～に、～で。:soyke ene(～の外へ)
- yak ヤク【接続助詞】[文+]:+発話・認識動詞]～と(言う・思う):[文 yak pirka/wenの形で]～(～する)といい・いけない。
- yanke ヤンケ【他動詞】(船などを)陸に揚げる。～を水から道具で採る。:cip usa wakka or wa ya ta an=rikinte(舟などを水から陸に上げる), pet to or wa aneiwanke ani nep ka an=uk(川・沼から道具で～を採る)
- ye イエ【他動詞】[文yak+]～(～と)言う、～を言う、～に言う。:sekor itak(～と言う)



# kampinuye 35 (asiknep ikasma re hot):練習問題(6)

カンピヌイエ アシクネナイカシマレホツ

## 復習の要点

### 1. 「～んだぞ」、修飾語+名詞、「～という…」、「怖い、嫌だ」、「～から(原因・理由)」、「悪い神、ニチネカムイ」



- (1) みなさんは建志君のお父さんです。お父さんは建志君にお買い物を頼みました。お父さんの立場で、「大きくて良い～を買うんだぞ」といってみましょう。(32-1, 33-1)  
 (例) 「大きくて良いはさみを買うんだぞ。(poro etuyep pirka etuyep e=hok nankor na.)」
- (2) 同じように、(34-4)にある表現も使って、買ってくるべきものを、自由の表現して見ましょう。また、名詞を並べて、「新しい～と…を買うんだぞ」という表現も言ってみましょう。(32-1, 33-1, 34-4)  
 (例) 「小さい黒い電話を買うんだぞ。(Cikapuni ta pon imeruinaw kunne imeruinaw e=hok nankor na.)」、「新しい手紙と鉛筆を買うんだぞ。(asir kampi asir anenuyep e=hok nankor na.)」
- (3) さて、今度は建志君の立場で考えてください。準備して出かけようと思ったら、どこからか声がありました。

ecikki oman na!

ecikki hok na!

行くなという声があったことを、お父さんに説明しましょう。(32-構文)

(例) 「行くなという声を聞いた。(ecikki oman na sekora an\_pe ku=nu.)」、など

(4) なんか気持ち悪いですね。お父さんに「いやだ、こわい」といみましょう。(32-3)

(例) 「怖い。(ku=sitoma.)」など

(5) 気持ち悪いので、お父さんに行きたくないことを伝えましょう。(33-3)

(例) 「行くなという声があったので、行きたくない。(ecikki oman na sekora an\_pe ne kusu somo ku=omanrusuy.)」、など

(6) 悪いニチネカムイかもしれないことをいってみましょう。(33-1)

(例) 「悪いニチネカムイかもしれない。(wen kamuy, nitnekamuy an humi.)」、など

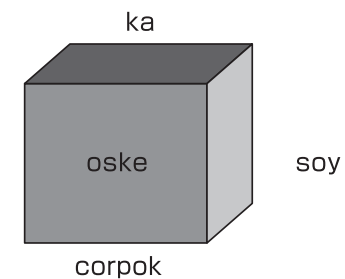
(7) 再びお父さんの立場で考えてください。そういえば、昨日夢の中で、悪いニチネカムイが枕元に来たことを思い出しました。そのことを建志君に伝えましょう。(33-2)

(例) 「悪いニチネカムイが枕元に来た。(wen kamuy, nitnekamuy an=paerupsi ta ek.)」、など

(8) あまり良くないことですね。他の人に言わないように、建志君に忠告しましょう。(32-構)

(例) 「悪いニチネカムイが来たということは、誰にも言うなよ。(wen kamuy, nitnekamuy ek sekora an peecikki nen ka ye na.)」、など

### 2. 位置名詞・場所名詞、「駅」、「トンネル」



場所名詞：peni「上流」、pani「下流」

位置名詞：ka「上」、corpok「下」、soy「外」、oske「中」

(1) 場所名詞を使って、「この村の川の上流にある」という表現を、作ってみましょう。(28-3, 32-3)  
 (例) 「この村の川の下流にある。(tan kotan pani ta an.)」、など

(2) 位置名詞を使って、「橋(riwka)、駅(kisaeratkcise)、トンネル(onupuriposoru)を通る」という表現を、色々組み合わせて、作ってみましょう。(32-2, 34-3, 34-5)  
 (例) 「橋の上を通る。(riwka ka kus.)」、「駅の外を通る。(kisaeratkcise soy kus.)」など

(3) 「私(たち)が、～を通る」という表現も作ってみましょう。(32-2)

(例) 「私たちが橋の上を通る。(riwka ka an=kus.)」、など

(4) 今みなさんは、橋の上にあります。見下ろすと汽車(kisa)が通っています。「私たちの下を通る」という表現をいってみましょう。また、「下」以外の位置名詞を使って、色々表現して見ましょう。(33-2)

(例) 「私たちの下を通る。(un=corpok kus.)」、など

### 3. 「～して…」、「～そう」

「来る(ek)」、「それを作る(neanpe kar)」、「帰る(hosipi)」、「～を置く(～anu)」、

(1) kampinuye 7練習問題(1)では、下の表現を使って、「wa(～してから)」という表現を勉強しましょう。同じように「～して/」という表現を使って、色々表現を組み合わせてください。(34-2)

(例) 「ここに来てそれを作った(te or ene ku=ek hine neanpe ku=kar)」、など

(2) (34-4)にある表現も使って、「～そう」という表現を作ってみましょう。(32-2, 34-4)

(例) 「良さそう。(pirka kotom siran.)」、「大きそう。(poro kotom siran.)」、など

# kampinuye 36 (iwanpe ikasma re hot): オイナ(1)

カンビヌイエ イワンペイカシマレホツ

tanpa sitokere kaykay tan_ene ci=honkuri karikari タンパ シトケレ カイカイ タネネチホンクリ カリカリ	その周りに
V piskani_ta ピシカンタ	
V tan_ene ci=honkuri karikari タネネチホンクリ カリカリ	
V tatni unarpe or_ta sap=as タツニウナヲベオツサパシ	カンビ(樺)の木のおばさんがいるところへ川を下って行き
V "sine pa ne na arpa ne na un=yantokor_yan" シネパネナ アヲパネナ ウンヤントコラン	「一年でも半年でも私を泊めてください」
V yantoetun=as rok_pe ヤントエトウナヲベ	宿を借り(ようとし)たが、
V tatni unarpe iruska hawe_ene an_hi タツニウナヲベ イルシカハウエネアニヒ	カンビの木のおばさんは腹を立ててこう言った。

## 学習の要点

### 1. piskani ta



kampinuye 28「学習の要点3」で、ka「上」、peni「上流」に代表される「場所としての存在」を表す名詞について学びました。これらは、しばしば前に別の名詞(ないしは人称接辞)を取って、「～の上」(例:taan riwka ka「あの橋の上」)、「～の上流」(例:tan kotan peni「この村の上流」)を意味します。piskani「周囲」(及びその短い形であるpiskanピシカン)も同様に、前に別の名詞を伴って「～の周りに」という表現を形成します。

cise piskan ta 家の周囲に



また、これらの名詞はkampinuye 33「学習の要点2」で学んだように、前に人称接辞を取る場合に主格(例:ku=, an=)を要求する場所名詞と目的格(例:en=, un=)を要求する位置名詞に二分されます。piskaniは、資料を見る限り人称接辞を取っている例がないことから、場所名詞として扱われます。

### 2. tatni unarpe or\_ta

kampinuye 32「学習の要点2」では、アイヌ語は「場所としての存在」とそれ以外の存在を区別する文法が厳然と動いており、kus「～を通る」のような動詞は「場所としての存在」しか目的語に取らないため、riwka kusという言い方はせず、riwka ka kusのようにka「上」という語を加えなければならないことを学びました。同様な制約が、ene「～へ」、ta「～に、～で」、wa「～から」、peka「～を通って」という一部の助詞にも当てはまります。これらの助詞は、「場所としての存在」を表す名詞しか目的語として許しません。従って、位置名詞でも場所名詞でもない普通の名詞を目的語として用いる際には、位置名詞または場所名詞を用いていわば「場所としての存在」を表すようにしなければなりません。その場合に、「上」、「下」、「上流」、「枕元」のように具体的な意味を表現出来れば～ka peka「～の上を通って」、～corpok ene「～の下へ」や～peni wa「～の上流から」、～paerupsi ta「～の枕元に」のように言うことができますが、これら具体的な意味を特に限定したくない場合には、位置名詞として最も意味の抽象的なor(またはその長い形であるoro)が用いられます。このような経緯から、教科書の本文にあるtatni unarpe or taはtatni unarpe taとは言えないのです。

 taan riwka an=kus.tan	kotan ta (kotanは場所名詞)	 ne cise ta
taan riwka ka an=kus.	tan kotan or ta	ne cise or ta

このように目的語として「場所としての存在」を要求する助詞は、単独では用いる副詞としての用法を持たない、二音節以下の語に限定されます。例を取ればeneとekotaは類似した「～へ」という意味を持つ助詞ですが、eneは単独で用いることが出来ないのに対して、ekotaは「そこへ」という意味の副詞として単独で用いることが出来ます。これらのうち、eneのほうは、目的語として「場所としての存在」を表す名詞を要求します。

 ene paye=an.	へ私たちは行く	 ta ne menoko ku=nukar.	で私はその女性に会った。
oro ene paye=an.	そこへ私たちは行く	oro ta ne menoko ku=nukar.	そこで私はその女性に会った。
ekota paye=an.	そこへ私たちは行く		

### 3. =as

kampinuye 27「学習の要点1」では、「聞き手を含む私たち」の行為を表現する他動詞の前にはan=が、同様な自動詞の後ろには=anが付くことを復習しました。それに対して、「聞き手を含めない私たち」の動作を表す他動詞にはan=ではなくci=、自動

詞には=anではなく=asが用いられます。

taan riwka ka an=kus nankor na.	「私たちはあの橋を渡るよ」(聞き手も渡ることが前提)
taan riwka ka ci=kus nankor na.	「私たちはあの橋を渡るよ」(聞き手は渡らないことが前提)

kampinuye 27「学習の要点1」ではまた、トウイタク(人々の物語)でan=、=anが「語り手である私」を表すのに使われることを学びました。これは、トウイタクで語り手(物語の主人公)と聞き手がどちらも同類の「人」となるため、「聞き手を含む私たち」を意味し「話し手と聞き手は同じグループに属する」ことを前提とするan=、=anが選ばれていると説明することが出来ることを指摘しました。いわば「あなたたち聞き手と同類である私は」の意味で用いられるということです。これに対して、主に神が語り手(物語の主人公)となるオイナ(神々の物語)では、原則としてci=と=asが用いられます。これについても、トウイタクの場合と同様な説明が可能です。つまり、オイナでは語り手(物語の主人公)と聞き手が「神」と「人」で異なるグループに属するため、「聞き手を含めない私たち」の意味を持ち「話し手と聞き手は異なるグループに属する」ことを前提とするci=、=asが選ばれ、いわば「あなたたち聞き手と異なる類である私は」の意味で用いられると考えられます。

更に、kampinuye 16の「学習の要点2」で学んだように、an=並びに=anという人称接辞は「話し手・聞き手を含む(多くの)人がする」という意味から転じて、「一般的に人がする行為」を表現する動詞にも用いられます。そのため、kampinuye 14でのukoitakに出て来たpekanpe an=uk、...yak an=yeはそれぞれ「(一般に人が) 菱の実を採る・菱の実が採れる」、「～と(一般的に人が) 言う・～と言われる」のような意味で用いられていました。

tanpe neno numi poro pekanpe an=uk yak an=ye.	こういう大きい菱の実が採れるんだって(採られると人は言う)。
"kamuy amam" sekor an=rekore yak an=ye.	『神の米』っていう名前なんだって(『神の米』と呼ばれると人は言う)。

同じような用法がci=、=asにもありますが、an=、=anを用いた場合よりも、より文語的な響きを持つようです。

tapanpe neno numi poro pekanpe ci=uk yak ci=ye.	かように大きな菱の実が採れると人は言う。
"kamuy amam" sekor ci=rekore yak ci=ye.	名付けて『神の米』なりと世人言う。

### 4. sine pa ne na arpa ne na

sine pa ne na arpa ne naは、文字通りには「一年ですよ、半年ですよ」ぐらいの意味に聞こえます。ここでは、「一年でも、半年でも」と解釈したいところですが、そのような意味を表すには差し詰めsine pa ne yakka arpa ne yakkaシネパネヤッカアラパネヤッカとしたところですが、「一年か、半年か」ならsine pa ne\_hene arpa ne\_heneシネパネネアラパネネとなるとところですが、音が少し違います。

## 文化的背景

### tanpa sitokere kaykay tan\_ene ci=honkuri karikari

オイナと呼ばれる神々の物語(北海道南西方言で言うカムイユカラ)は、折り返し(サケヘと呼ばれる繰り返)が挿入されます。知り真志保先生の「アイヌの神謡(一)」によれば、このような折り返しの多くは、主人公の神(例えば動物)の泣き声や典型的動作に伴う音や様態を表す擬声語・擬態語、あるいは物語りの中で行われる動作の表現で、元来、意味のあるものだったようです。それが、伝承を繰り返す中で意味が不確かあるいは全く分からなくなってしまったようです。【川村ノート1997】(浅井亨先生によるアイヌ語上級講座の川村兼一さん筆記の講義録)によればtanpa sitokere kaykayは「今年は、食べ物(文字通りには「団子」)が無くなって(文字通りには「終わる」)」ぐらいの意味、tan\_ene ci=honkuri karikari「このように私のお腹の影がクルクル」程度の意味に解釈されます。これは、主人公の熊が身ごもりお腹が大きくなった姿で食べ物を求めてさまよう姿を表しているそうです。

## 今日の単語

- =as** アシ【人称接辞】[動詞+] (聞き手を含めない) 私たち(が～する)、一般人(が～する)、【物語の中でカムイである】私(が～する)。(類ei=):itak kur utar iki (kor ka inu kur somo iki) sekor an moy moy keitak okake us (話し手が何かする[が聞き手はしない]という動詞の後ろに付く)
- arpa** アヲパ【名詞】半年。:sine pa arke (一年の半分)
- ci=** チ【人称接辞】[+動詞] (聞き手を含めない) 私たち(が～する)、一般人(が～する)、【物語の中でカムイである】私(が～する)。(類as=):itak kur utar iki (kor ka inu kur somo iki) sekor an moy moy keitak etoko us (話し手が何かする[が聞き手はしない]という動詞の前に付く)
- hawe** ハウエ【名詞】～の声、～の言うこと。(類itak)【形式名詞】[文+] (人から聞いたことから判断して)(～する・した)こと、(～する・した)という話。: [文末詞的に用いて]～だねえ、～なの?:an=yep (言われたこと)
- honkuri** ホンクリ【折り返し要素】「お腹の影」のように聞こえるが意味未詳。
- iruska** イルシカ【自動詞】腹を立てる、怒る。(他ruska):nep ka an=ruska (何かに腹を立てる)
- karikari** カリカリ【折り返し要素】「くるくる、回る回る」のように聞こえるが意味未詳。
- kaykay** カイカイ【折り返し要素】「折れ波」、「折れる折れる」、「負ぶう負ぶう」などのように聞こえるが意味未詳。
- pa** パ【場所名詞】年、歳。:tup ikasma wan cup (12ヶ月)
- pe** ペ【形式名詞】[動詞・文+] (～する・した)もの、(～する・した)こと。:hi (こと)、nep ka (何か)【接続助詞】《口語体》(～する・した)が、(～する・した)のに。:korka (～する・したのに):子音で終わる動詞句に付く形。母音で終わる動詞句に付く形は-p。
- piskani** ピシカニ【場所名詞】(～の)周り。:okari hi (の周りのところ)
- rok** ロク【動詞】(～し)た。(単a):wa an (～してしまっている)
- sap** サツ【自動詞】(川下へ)下る、(山から野へ)出る、(浜へ)下りる。(類ran, asin):panake ne paye=an, nupuri or wa nup or ene paye=an, pis or ene paye=an (川下へ行く、山から野へ行く、浜へ行く)
- sitokere** シトケレ【折り返し要素】「団子が終わる」程度に聞こえるが意味未詳。
- tanpa** タンパ【名詞・副詞】今年。:tanto oma pa (今日が入っている年)
- tatni** タツニ【名詞】カンビ、樺の木。:sinean ni (ある木)
- un=** ウン【人称接辞】[+動詞] 私たち(を～する)、私たち(に～する)、【物語の中で】私(を～する)、私(に～する)。(類i=):itak kur utar ekota iki=an sekor an moy moy keitak etoko us (話し手たちに対して何かがされるという動詞の前に付く)
- unarpe** ウナヲベ【名詞】おばさん。:rupne mat, huci akkari pewre mat (歳を取った女性、お婆さんより若い女性)
- yantoetun** ヤントエトウン【自動詞】宿を借りる、泊めてもらう。(反yantokor; 類yantone):yantone=an, an=kor cise oyake ta an cise or ta mokor=an (泊まる、自分の家の他のところにある家で寝る)
- yantokor** ヤントコロ【他動詞】～を泊める。:yantonekur ne an=kor (客として持つ)





# kampinuye 38 (tupesanpe ikasma re hot): オイナ(3)

カンピヌイエ トゥペサンペイカシマレホツ

V komni unarpe or_ta ci=ye rok pe コムニウナラベオッタ チイエロツペ	ナラの木のおばさんに言うと、
V "ene an= eranpokin pe エネアネランポキンペ	「私はこのようなお前をかわいそうに思った
V e=ne kusu henpak_pa ne yakka エネクス ヘンパツパ ネヤッカ	ので、いつまでも
i=or_ta e=an_wa ne_yakka pirka ki na" イオッタエアンマネヤッカ ピリカキナ	私のところにいてもいいよ。」
V sekor komni unarpe itak kusu セコロコムニウナラベ イタククス	とナラの木のおばさんが言ったので
V komni unarpe or_ta oka =an_ayne コムニウナラベオッタ オカナイネ	ナラの木のおばさんがいるところで暮らしていると
pirka kamuy otcina henpakpe ka ピリカカムイオッチナ ヘンパツペカ	すばらしい熊の幼子を何匹か
an=kor pe ne kusu アンコロペネクス	私には生まれたものだから
paye=an sekor パイェアンセコロ	私はそこへ行くのだと
eper katkemat yayeisotak エベレカツケマツヤイエインイタク	熊のご婦人が話した。

## 📖 学習の要点

### 1. ene an=eranpokin pe e=ne

eranpokinは「～を気の毒に思う」という意味の他動詞です。この句は、ナラ木のおばさん(カムイ)が熊(やはりカムイ)に言っている言葉なので、an=は「聞き手と同類である私は」の意味で用いていると解釈することも出来ます。その場合は、「お前は私が気の毒に思う者なので」となります。それに対して、an=には「一般的な人が」という意味をあらわすこともあり、その場合は「お前は一般的に人が気の毒に思うものなので」という意味になります。

ところが、このような説明は必ずしも成立しない危険性もあります。本文の最後5行では「語り手である私」がan=及び=anで表現されています。本文はオイナなので、ci=及び=asとなって欲しいところですがそうはなっていません。但し、この部分だけはサケヘ(折り返し)を省いて節を付けずに語っているところを見ると、トゥイタクのようになっていると解釈することも出来ます。トゥイタクは多くが人々の物語であるため、語り手の表現にan=及び=anが用いられることはkampinuye 36「学習の要点3」で既に見たとおりです。この形式の影響を受けている可能性もあります。オイナの中には、全編このようにサケヘを付けずに語られるものもあり、それらはしばしばrupayeルパイェ(「半分節を言う」の意味)またはirupayeイルパイェ(「それを半分節で言う」の意味)などと呼ばれます。(kampinuye 30「文化的背景」を参照) それでもやはりan=及び=anの使用が見られるようです。

### 2. henpak pa ne yakka

henpakは「幾つの、何(個)」という意味の形容詞(伝統的な文法用語では連体詞)です。henpak paで「何年(か)」となります。その四行下に出てくるhenpakpeもhenpak「幾つの」+pe「もの」から来ています。従って、henpak pa ne yakkaで「何年でも」、henpak pe ne yakkaで「幾つでも」となります。henpakpa, henpakpeと一語で綴るか、henpak pa, henpak peと二語で綴るかは決まっていません。

### 3. i=or\_ta e=an

i=はan=と=asに対応する目的格の人称接辞です。また、orはka「上」、corpok「下」、soy「外」、oske「中」など位と同じ置名詞です。位置名詞は、「私の上」、「私たちの下」のような表現を作る際、ku=やan=のような主格の人称接辞ではなくen=やun=という目的格の人称接辞を用いることをkampinuye 33「学習の要点2」で学びました。kampinuye 36「学習の要点2」で指摘したとおり、位置名詞の中で最も意味が抽象的なのがor(ないしその長い形のoro)です。従って、i=or ta e=anは「私のところにお前がいる」という意味です。

### 4. yayeisotak

kampinuye 31「学習の要点4」で学んだように、yayeisotak, yayetuytak, yayeyukarは「一人称語り・自叙伝」の形で展開するアイヌ文学(トゥイタク(tuytak)と呼ばれる人々の物語やオイナ(oyna)と呼ばれる神々の物語)の結びとして用いられる「語り手が自分のことを語りました」という表現で用いられます。

kamuy menoko 神の女性は  
yayetuytak 身の上話をした。

oyna kamuy pon turesi オイナ神の末娘が  
yayetuytak \_hawan 身の上話をしたそうだ

sekor okikurmi kamuy rametok とオキクルミ神の勇士は  
yayetuytak. 自らの身の上話をした。

nispa katkemat yayetuytak. 金持ちの妻が自ら語った。

\_hawe an na. sekor Petkitay 話をしたのだとベッキタイの  
un nispa ponpoho 金持ちの年下の息子が  
yayeisotak. 自らの身の上を語った。

cup or\_us kur unuhu 月にいる者の母が  
yayeyukar 身の上話をした。

sekor kamuy sasuyisir と神の子孫である

menoko yayeyukar. 女が身の上話をした。

## 👉 今日の構文

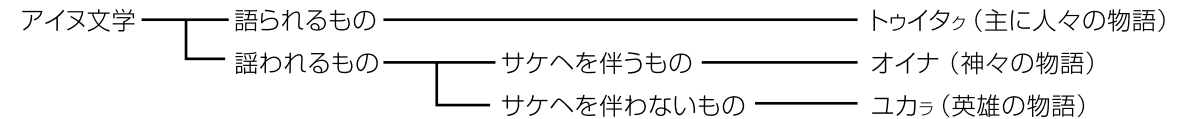
### wa ne\_yakka pirka ki na

これはyakka pirka naといっても意味は殆ど変わりません。wa ne\_yakka pirka ki naという表現は、それ特有の意味を表すためというよりも口調を整えるために用いられていると思われます。このようにオイナやユーカーなど「歌われるもの」(kampinuye 30「文化的背景」を参照)では、口調を整えるために長めの句が用いられることがあります。yakunの代わりにwa ne yakun、korkaの代わりにiki p ne korka、kusuの代わりにp ne kusu、waの代わりにruwe ne korを用いるというのは同様な理由からであることが少なくありません。また、pirka ki naもpirka naだけでも意味に大きな違いはありません。ここにkiが入っているのも、同様に口調を整えるのが主な目的だと思われます。

## 📁 文化的背景

### アイヌ文学の主なジャンル:

アイヌ文学の主なものは、「一人称語り・自叙伝」の形で展開することをkampinuye 30「文化的背景」で学びました。それらは「語られるもの」と「語られるもの」の二分され、前者をサコイエする(sa-ko-ye節・と共に・を言う)、後者をrucayeルチャイエ(またはrupayeルパイェ)する(ru-ca-ye半分・節・を言う)と言うとする知里先生の説明を引用しました。「語られるもの」の代表格は今期最初の本文で取り上げたようなトゥイタク(tuytak)と呼ばれる物語で、語り手の認識としては節(melody)や折り返し(refrain)を用いないのが基本です。それに対して「語られるもの」の代表格はここで扱ったオイナと第四期で取り上げるユカで、いずれも豊かな節(melody)を伴います。オイナがトゥイタクやユカと顕著に異なるのは、kampinuye 36「今日の構文」で触れたようにサケヘを伴う点です。また、内容的に見てもこれら三つのジャンルは対照的です。トゥイタクの多くが「人々の物語」であるのに対して、オイナは「神々の物語」、ユカは「英雄の物語」です。トゥイタクの中には、オイナをサケヘと節(melody)なしで語ったrupayeルパイェないしはirupayeイルパイェと呼ばれるものも含まれますが、「人々の物語」に比べると数は決して多くないようです。また、オイナと呼ばれるものには人間の始祖であるコタンカカムイ(国造りの神)の自叙とそれ以外の神々の自叙伝の両方がある、前者をカムイユカと言って区別する地域もあるようですが、旭川方言に関する限りそのような区別はありません。一方、ユカの多くがpoyyaunpeポイヤウンペと呼ばれる英雄を主人公とする物語で、金田一先生や知里先生はこれを恋愛と戦いを中心に描く壮大な叙事詩として特徴付けています。



## 📖 今日の単語

e= エ【他動詞】【+動詞】お前(が～する)、【+名詞】お前(の～)。: inu kur iki, inu kur ekota iki=an sekor an moy moykeitak etoko us (聞き手が何かをする、聞き手に対して何かがされるという動詞の前に付く)  
eper エペリ【名詞】熊。大きい熊(poro eper)に対しても、子供の熊(pon eper)に対しても使う。: kimun kamuy, ponpe ne yakka porop ne yakka "eper" ne yak an=ye (熊、小さいものでも大きいもの eper であると言う)  
eranpokin エランポキン【他動詞】～を可愛そうに思う、～を気の毒に思う。: inunukas sekor yaynu=an (～が可愛そうだと思う)  
henpak ヘンパツ【形容詞】幾つの、幾つかの、【+pe/paの形で】何(個、年)。: ipiski=an yak nekon an (数えるときどんな)  
henpakpe ヘンパツペ【代名詞】幾つ。: ipiski=an yak nep (数えるときどんな)  
i= イ【人称接辞】【+動詞】私たち(を～する)、私たち(に～する)、【物語の中で】私(を～する)、私(に～する)。(類 un=): itak kur utar ekota iki=an sekor an moy moykeitak etoko us (話し手たちに対して何かがされるという動詞の前に付く); 【+位置名詞】私たちの～、【物語の中で】私の～。  
kamuy カムイ【名詞】神。: =kimun kamuy熊。: <形容詞的に用いて> 尊い、立派な、非常に優れた。: aynu ka somo ne utar (人間でない者たち): eper (熊): [+re] pase (【+名詞】尊い)  
otcina オッチナ【名詞】幼子。: ponpe (子供)  
yayeisotak ヤイエインイタク【自動詞】自分について語る。(類 yayetuytak): yayetuytak=an (自分について語る)

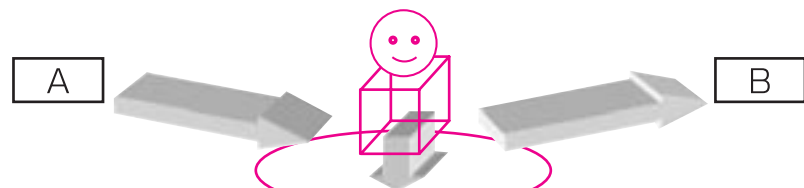


# kampinuye 39 (sinepesanpe ikasma re hot): 練習問題(7)

カンピヌイエ シネペサンペイカシマレホツ

## 復習の要点

### 1. 「～に、へ、から…」、「(普通)～だ」「～するものである」、「～のところへ」



kor cise彼(彼女・彼ら)の家; riwka橋  
 kisaeratkcicise駅; ne kotanその村; pu倉庫; gakko学校  
 pu kotcake倉庫の前

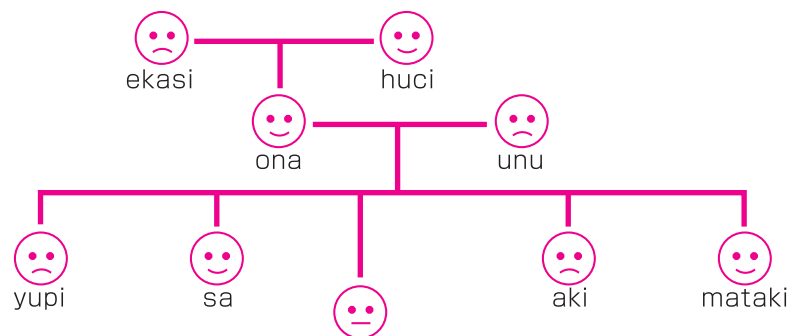
(1) 「(e)ne, wa (no)」と「行く/来る」を組み合わせ、「私はAから来る」、「私はBに行く」と表現してみましょう。(この問題は、kampinuye 13練習問題(2)でも行いました。今回はorを正しくつかって表現してください。orが見つ場合と、つかない場合の違いを確認してください。)(36-2)

(例) 「私は彼の家から来る。(kor cise or wa ku=ek.)」、「私は倉庫へ行く。(pu or ene ku=oman.)」、など

(2) 「私は、(普通)～へ行かない」という意味に限定するように、また「私は、～へ行かない(つもりだ)」という意味に限定するように、表現してください。(37-3)

(例) 「私は(普通)彼の家に行く。(kor cise or ene oman pe ku=ne.)」、「私は彼の家に行く(つもりだ)。(kor cise or ene ku=oman na.)」、など

(3) kampinuye 13練習問題(2)では、下の図を使って、家族の表現を勉強しました。



上の図のBの部分、いろいろ言い換えて、「～のところに行った」という表現してみましょう。(36-2)

(例) 「おじいさんのところへ行った。(ekasi or ene ku=oman.)」、など

### 2. 「私たちは～」、「～のだが、のに」、「～いうには」、「私のところに～」、「～の周り」



(1) 家族みんなで出かけることになりました。お父さんの立場になって、「おばさんのところへ行くよ」といってみましょう(他にも、色々な名前を変えて言ってみましょう)。(25-構文, 32-1, 36-2)

(例) 「おばさんのところへ行くぞ。(unarpe or ene paye=an nankor na.)」、「おじいさんのところへ行くぞ。(ekasi or ene paye=an nankor na.)」、など

(2) 昨日おばさんのところへ行ってきました。下の聞き手である彼にってください。(36-2, 36-3)



(例) 「おばさんのところへ行った。(unarpe or ene paye=as.)」、など

(3) おばさんのところに行つてのですが、おばさんは留守でした。会えなかったので、みんな少々不満顔です。



「おばさんのところへ行ったけど、いなかった」という表現を作ってみましょう。(37-4)

(例) 「おばさんのところへ行ったのだが、いなかった。(unarpe or ene paye=as rok pe, somo an.)」、など

(4) また、おばさんがいなかったので以下のことをしてきました。

「空知に行った」  
 「菱の実をたくさん採る」  
 「お土産を幾つか買う(imoka henpakpe ka ci=hok)」

ci=、as=の位置に十分注意した上で、「私たちは～」という表現を作ってみましょう。(36-3, 38-2)

(例) 「私達は、空知に行った。(Sorapci ene paye=as.)」、「私達は、菱の実をたくさん採った。(pekanpe poronno ci=uk.)」、「私達はお土産を幾つか買った(imoka henpakpe ka ci=hok)」など

(5) 後日、おばさんから電話が来ました。怒っているようです。



「怒つていうには、」という表現を作ってください。(37-1)

(6) 実はおばさんは、家の回りにいたんだけど、家族の訪問に気付かなかったみたいです。おばさんの立場になって、「私のところに来た?」と聞いてください。また「家の回りにいた」と言ってください。(36-1, 38-3)

(例) 「私のところにきた?家の回りにいたわよ。(i=or\_ta es=arki ya? cise piskan ta ku=an na.)」など



## Tuytak (人々の物語)

オタストウの婦人の自叙

ramma kane okay\_=an,

ランマカネ オカヤン

kesto kesto, kemeiki, ikarkar patek

ケシトケシト ケメイキイカヲカヲパテク

an=\_eyaynewsarka wa oka=an.

アネヤイネウサヲカワオカアン

sineanta inu\_=an \_hike

シネアンタ イヌヤニケ

an=kotan peni ta an kotan kor\_nispa siyeye,

アンコタンベニタアン コタンコンニシパ シイエイエ

nekon an=kar yakka wen kasuy,

ネコナンカヲヤッカ ウエンカスイ

tane anakne ray kotom hawas

タネアナツネ ライコトムハワシ

sinean\_ukuran, mokor=an awa,

シネアヌクラン モコラナワ

an=paerupsi ta sine kamuy ne an kur a wa,

アンパエルヲシタ シネカムイネアングラワ

ene itak\_hi,

エネイタキ

"Otasut\_un katkemat,

オタストウカツケマツ

itak\_=an ciki u pirka nu wa i=korpare ya.

イタカンチキ ウピリカヌワ イコロバレヤ

sinuma anakne tan kotan peni ta an

シヌマアナツネ タンコタンベニタアン

kotan\_or ta an to kor kamuy an=ne wa

コタノッタアン トコロカムイアンネワ

okay\_=an pe an=ne.

オカヤンベアンネ

to okari puy an=\_etoyta kor

トオカリ ブイアネトイタコロ

tan kotan kor\_nispa kor katkemat puy ta kor

タンコタンコンニシパコロカツケマツ ブイタコロ

sine tuy ka somo ama no opitta ta wa okere.

シネトウイカ ソモアマノ オピッタタワオケレ

an=ruska kusu kotan kor\_nispa an=\_arkare yakka

アンルシカクス コタンコンニシパ アナヲカレヤッカ

kespa kespa neno iki,

ケシパケシパ ネノイキ

tane anakne ray noyne kotom an.

タネアナツネ ライノイネコトマン

tane wano, katkemat puy ta yakka

タネワノ カツケマツ ブイタヤッカ

tane pakno neno iki yakun,

タネパクノ ネノイキヤクン

kotan kor\_nispa newa katkemat ka an=rayke na.

コタンコンニシパネワ カツケマツカ アンライケナ

いつも変わりなく私は暮らし、

毎日毎日針仕事、刺繍ばかり

して楽しんでいた。

ある時、聞いたところ

私の村の川の上流にいる村おさが

病気になり、どんなにしても悪くなり、

もはや死にそうであるという。

ある夜私が眠ると

枕元にひとりの神である人が座っていて、

このように言った、

「オタストウのご婦人、

私が話すからよく聞いて下され。

私はこの村の川の上流にある

村のところにある沼の神であって

暮らしていたものである。

沼のまわりに私がヤチブキの根を私が植えたところ、

この村おさの妻がヤチブキの根を掘り

一本も残さずすべて掘ってしまった。

腹が立ったので村おさを病気にしてやったが

毎年毎年そのようにそうして、

今にも死にそうであるようだ。

これから、奥さんがヤチブキの根を掘っても

今までのようにするなら、

村おさと奥さんも私は殺すぞ。

tane wano, kotan kor utar yayunaske yakun,

タネワノ コタンコロウタラ ヤユナシケヤクン

nispa an=siknuka nankor."

ニシパアイシクヌカナンコロ

sekor i=cinitare. orowano

セコロイチニタレ オロワノ

an=kotanu peni un kotan an=koapkas,

アンコタヌベニウンコタン アンコアツカシ

kotan noski ta an poro cise soy ta sihumnyar\_=an\_awa

コタンノシキタアン ポロチセソイタ シフムヌヤラナワ

sine katkemat\_asin \_hine, i=ahunke.

シネカツケマタシニネ イアフンケ

ahup=an\_awa osison ta cise kor\_nispa

アフパナワ オシソソタ チセコンニシパ

sattek siri hotke wa an.

サツテクシリ ホツケワアン

ene itak\_=an\_hi,

エネイタカニヒ

"hokure, hokure, kamuy sikaopaste yayunaske yan,

ホクレホクレ カムイシカオパシテ ヤユナシケヤン

somo ne yakun yupkep an na!"

ソモネヤクン ユツケパンナ

sekor\_itak\_=an awa kotan kor utar uekarpa,

セコリタカナワ コタンコロウタラ ウエカヲパ

kamuy nomi=an. to kor kamuy ekota yayunaske=an\_ayne

カムイノミアン トコロカムイエコタヤユナシケアナイネ

kotan kor\_nispa hopuni wa ipe kor

コタンコンニシパホブニワイペコロ

husko katu ne an.

フシコカトウネアン

orowano ne to teksama ta an puy an=ta kor

オロワノ ネットツサマタアンブイ アンタコロ

sine tuy ne yakka an=\_ama kor orowano tan kotan ta

シネトウイネヤッカ アナマコロ オロワノ タンコタンタ

nep ka an=\_eranak pe isam sekor hawas.

ネツカアネラナツペ イサムセコロハワシ

ene\_an pe ne kusu

エナンペネクス

teeta kane puy ta katkemat

テエタカネ ブイタカツケマツ

sine tuy ka somo anu no puy ta kusu,

シネトウイカソモアヌノブイタクス

nani ponko kor\_nispa isam korka,

ナニボンコ コンニシパイサムコロカ

oka=an keray kusu nispa onunposo.

オカアンケライクス ニシパオヌンポソ

tane wano okay utar, nep rataskep ta yakka

タネワノ オカイウタラ ネツラタシケツ タヤッカ

これから、村の人々が謝るなら、

村おさを生かしてやろう」

と私は夢で知らされた。それから、

私の村より上流にある村へ出かけて、

村の中央にある大きな家の外で私が咳払いすると

一人の奥さんが出てきて私を家の中に入れた。

私が入ると右座に家の主が

やせ細っているようすで横になっていた。

私はこのように話した、

「急いで、急いで、神の助けを求めて謝りなさい。

でなければ、とんでもないことになるよ」

そう私が言うとき村の人々は集まり、

私たちは神へ祈った。沼の神へ私は謝ったところ

村おさは起き上がって、食事をすると

元の状態になったのだ。

それから、その沼のそばにあるヤチブキの根を掘る時には、

一本でも残すとそれからこの村に

何も心配事がなくなったとのことだ。

このようなことであるので

ヤチブキの根を掘った奥さんはずっと

一本も残さないでヤチブキの根を掘ったので、

危うくその旦那を亡くすところだったが、

私がいたおかげで村おさは生きのびた。

これからの人は、どんな山の幸であろうと



sine tuka ka somo ama no opitta somo ta yan.  
シネトゥカカソモアマノ オピッタソモタヤン  
ponno ne yakka ama yan!  
ポンノネヤッカアマヤン  
sekor Otasut\_un mat yayetuytak.  
セコロ オタストウンマツ ヤイエトウイタク



## ukoitak 6 (会話 6)

(神居大橋にて)  
A: tan riwka ka an=kus nankor\_na.  
タンリウカカ アンクシナンコンナ  
B: ku=sitoma.  
クシトマ  
C: ku=kopan.  
クコパン  
D: hempano arki. Kamuykotan ne kusu iyaykipte.  
ヘンパノアキ カムイコタンネクスイヤキッテ  
yayeyam no apkas\_hani.  
ヤイエヤムノアッカサニ  
E: Kamuykotan sekor an pe ne kusu nep ka kamuy an ruwe?  
カムイコタンセコランペネクス ネッカカムイアンルウェ  
D: kamuy ne korka wen kamuy, nitnekamuy ne kusu  
カムイネコロカ ウェンカムイ ニツネカムイネクス  
an=homa p ne ruwe ne.  
アンホマツネルウェネ  
F: nean nitne kamuy na an\_ya?  
ネアンニツネカムイ ナアンヤ  
D: teeta wen\_hike patek ki kor an korka Samayekur an wa  
テエタウェニケバテッキコランコロカ サマイエクルアンワ  
kotumikor ayne tametuye wa okere.  
コトゥミコライネ タメトウIEWオケレ タアンヌブリカタ  
taan nupuri ka ta Samayekur an\_wa kusu  
Samayekur inkar casi sekor rean ruwe ne.  
サマイエクリンカヲチャシ セコンレアンルウェネ  
G: taani sonno oho kotom siran.  
タアニソンノオホコトムシラン  
D: Paramoy ne. teeta anakne nean\_hi pakno atuy an wa  
パラモイネ テエタアナツネ ネアニパツノアトウイアンワ  
pencay ek\_hine ne or wa cihoki an=yanke yak an=ye.  
ペンチャイエキネ ネオロフ チホキ アイヤンケヤカイエ  
neanpe kusu Sikeuspa sekor an=rekore.  
ネアンペクス シケウシパ セコランレコレ  
B: A, kisa an.  
ア キサアン  
A: taanpe husko kisaeratkcicise ne. kisaruru asir wa  
タアンペフシコキサエラッキチセネ キサルアシリワ  
tane anakne kisa otoyposoru kus ruwe ne.  
タネアナツネ キサオトイボソルクシルウェネ

一本も残さないですべて掘らないですよ。  
すこしでも残してよ  
とオタストウの婦人が自分について語った。

この橋渡るんだよ。  
怖あい。  
やだあ。  
早く来い。<sup>カムイ コタン</sup>神居古潭だから危ないぞ。  
気をつけて歩けよ。  
カムイコタンで言うんだから、何かカムイが住んでるの。  
カムイとは言っても悪いニチネカムイだから、  
恐ろしいんだよ。  
そのカムイは今でもいるの。  
昔、(ニチネカムイは)悪いことばかり、  
してたんだけどサマイクルがいて、  
戦いを挑んで、ついには切り殺しちゃったの。  
あの山の上にサマイクルがいたんで、  
サマイクル・インカラ・チャシって言うわけ。  
あそこ、凄い深そう。  
パラモイだな。昔は、そこまで海があって、  
弁財船がやって来て、そこから荷物を下ろしたんだと。  
それで、シケウシパって呼ばれてんの。  
あっ、汽車がある。  
あれは昔の駅なの。線路が新しくなって  
今はトンネルを通っているのよ。



## Oyna (神々の物語)

熊神の自叙  
tanpa sitokere kaykay tan\_ene ci=honkuri karikari  
タンパ シトケレ カイカイ タネネチホンクリ カリカリ  
V piskani\_ta  
ピシカント  
V tan\_ene ci=honkuri karikari  
タネネチホンクリ カリカリ  
V tatni unarpe or\_ta sap=as  
タツニウナラベオッタサバシ  
V "sine pa ne na arpa ne na un=yantokor\_yan"  
シネパネナ アヲパネナ ウンヤントコラン  
V yantoetun=as rok\_pe  
ヤントエトウナシロツベ  
V tatni unarpe iruska hawe\_ene an\_hi  
タツニウナラベ イルシカハウェネアニヒ  
V "ene an iperuy kur anakne somo ci=yantokor na"  
エネアン イベルイクラナツネ ソモチヤントコロナ  
V tatni unarpe iruska kusu  
タツニウナラベ イルシカクス  
V orowa sap=as  
オロワサバシ  
V komni unarpe or\_ta paye=as  
コムニウナラベオッタ パイエアシ  
V "sine pa ne na arpa ne na un=yantokor\_yan"  
シネパネナ アヲパネナ ウンヤントコラン  
V tan\_ene ci=honkuri karikari  
タネネチホンクリ カリカリ  
V komni unarpe or\_ta ci=ye rok pe  
コムニウナラベオッタ チイエロツベ  
V "ene an=eranpokin pe  
エネアネランポキンペ  
V e=ne kusu henpak\_pa ne yakka  
エネクス ヘンパツパ ネヤッカ  
i=or\_ta e=an\_wa ne\_yakka pirka ki na"  
イオッタエアンマネヤッカ ピリカキナ  
V sekor komni unarpe itak kusu  
セコロコムニウナラベ イタックス  
V komni unarpe or\_ta oka\_=an\_ayne  
コムニウナラベオッタ オカナイネ  
pirka kamuy otcina henpakpe ka  
ピリカカムイオツチナ ヘンパツペカ  
an=kor pe ne kusu  
アンコロペネクス  
paye=an sekor  
パイエアンセコロ  
eper katkemat yayeisoitak  
エベルカツケマツヤイエソイタク

その周りに  
カンビ(樺)の木のおばさんがいるところへ川を下って行き  
「一年でも半年でも私を泊めてください」  
宿を借り(ようとし)たが、  
カンビの木のおばさんは腹を立ててこう言った。  
「こんな大食である者は泊めないよ」  
カンビの木のおばさんは腹を立てたので  
私は下って行き  
ナラの木のおばさんがいるところに行った。  
「一年でも半年でも私を泊めてください」  
ナラの木のおばさんに言うと、  
「私はこのようなお前をかわいそうに思った  
ので、いつまでも  
私のところにいてもいいよ。」  
とナラの木のおばさんが言ったので  
ナラの木のおばさんがいるところで暮らしていると  
すばらしい熊の幼子を何匹か  
私には生まれたものだから  
私はそこへ行くのだと  
熊のご婦人が話した。





an=uk (お金を払って～を取る)

**hokure**ホクレ【自動詞】**急ぐ**。：【間投詞】さあ。：tunas (速くなる)

**homa**ホマ【他動詞】**～を恐れる**。：an=sitoma (～を怖がる)

**honkuri**ホンクリ【折り返し要素】「お腹の影」のように聞こえるが意味未詳。

**hopuni**ホプニ【自動詞】**起き上がる、立ち上がる**。(反*hotke*、複*hopunpa*)：an=netopake an=rikinte (体を上げる)

**hopunpa**ホブンパ【自動詞】**起き上がる、立ち上がる**。(反*hotke*、複*hopuni*)：an=netopake an=rikinte (体を上げる)

**horkew**ホロケウ【名詞】**狼**。：seta neno an katu kor kamuy (犬のような神)

**hosipi**ホシビ【自動詞】**帰る、戻る**。：an=kor cise ene oman=an, or ta hoski no an=an hi ta oman=an (自分の家に行く、元いた場所に行く)

**hosippa**ホシッパ【自動詞】(**複数の人か**) **帰る、戻る**。(他*hosippare*)：an=kor cise ene paye=an, or ta hoski no okay=an hi ene paye=an (自分の家に行く、元いた場所に行く)

**hosippare**ホシッパレ【自動詞】**～を帰す、～を戻す**。(自*hosippa*)：kor cise ene an=omante, or ta hoski no an hi ene an=omante (自分の家に行く、元いた場所に行く)

**hoski**ホシキ【副詞】**最初に**。(反*ios(i)*)：iyotta etoko an (一番先の)

**hot**ホツ【名詞】**二十**。：[数を表す形容詞+] ~十。：tu wan (二つの十)

**hotke**ホツケ【自動詞】**横になる、横たわる**。(反*hopuni*)：an=netopake an=ranke (体を下ろす)

**huci**フチ【名詞】**お婆さん、お婆ちゃん**。(反*ekasi*)：rupne mat (年をとった女性), an=ona unu (父の母), an=unu unu (母の母)

**huipe**フイペ【名詞】**刺身、魚や動物を生で食べる料理**。：somo an=suye no an=e usa cep usa kam (煮炊きせず食べる魚や肉)

**humi**フミ【形式名詞】[文+] (言葉以外の聴覚・味覚・臭覚・触覚・直感から判断して) (～する・した) 感じ、(**～する・した**) **みたい・かも** **もしれない**。：[文末詞的に用いて] *～だねえ、～なの?*：ene an=nu katu (感じたこと)

**hunna**フンナ【間投詞】**どうも**。

**huraye**フライェ【他動詞】**～を洗う**。：toy ne yakka tur ne yakka wakka turano uska (土や汚れを水でなくす)

**husko**フシコ【自動詞】**古い、古くなる、[形容詞的に] 昔の、元の**。：somo asir (新しくない)

i=イ【人称接辞】[+動詞] **私たち(を～する)、私たち(に～する)、[物語の中で] 私(を～する)、私(に～する)**。(類*un=*)：itak kur utar ekota iki=an sekor an moymoykeitak etoko us (話し手たちに対して何かがされるという動詞の前に付く)：[+位置名詞] **私たちの～、[物語の中で] 私の～**。

**icakkere**イチャックレ【自動詞】**汚い**。：turus (垢の付いた), sirun (酷い)

**ik**イク【名詞】**千**。：wan atuyta (10個の百)

**ikarkar**イカㇿカㇿ【自動詞】**刺繍する**。：【名詞】刺繍。：ka ani noka an=nuye (糸で絵を描く)

**iki**イキ【自動詞】**する、そうする**。(他*ki, kar*)：nep ka an=ki (何かをする)

**ikipa**イキパ【自動詞】**する**。：nep ka an=ki (何かをする)

**ikkew**イッケウ【名詞】**腰、宝壇、[言葉の] 内容**。：an=osoro kaske (尻の上)

**ikor**イコロ【名詞】**宝、財産**。：icen usa emus usa neno an pe (お金や宝刀のようなもの)

**imoka**イモカ【名詞】**土産**。：anun kor cise ene oman=an hi ta an=koroman pe (よその人の家に行くとき持って行くもの)

**inkar**インカㇿ【自動詞】**見る、目をやる**。(他*nukar*、類*ehewpa*)：an=siki an=kiru (目を向ける)

**inu**イヌ【自動詞】**聞く、耳を傾ける**。(他*nu*)：an=kisara an=kiru (耳を向ける)

**inumpe**イヌンペ【名詞】**炉縁**。：apeoy okari p (囲炉裏を囲むもの)

**ios, iosi**イオシ、イオシ【副詞】**後で、最後に**。：nep ka okake ta (何かの後に), opitano okake ta (全ての後に)

**ipe**イペ【自動詞】**食事をする**。(他*e*)：【名詞】**食事、食べ物、(実等)の中身**。：anep an=e (食べ物を食べる)

**iperuy**イペルイ【自動詞】**大食である、大食いである**。：nep ne yakka poronno e (何でも沢山食べる)

**iporo**イボロ【名詞】**顔色**。：ene nanka an katu (顔の表面の様子)

**iporse**イボッセ【名詞】**言い回し、表現、方言**。：ene itak=an katu (言い方)

**irammakaka**イラムマカカ【副詞】**美しく、丁寧に、快く**。：pirkano (良く), siretokornno (美しく)

**iraye**イライエ【自動詞】**狷をする**。：nep ka cikoykip an=koyki (何か獲物を獲る)

**iri**イリ【自動詞】**動物の皮剥ぎをする**。：nep ka cikoykip an=ri (何か動物の皮を剥ぐ)

**irukay**イルカイ【副詞】**しばらく**。：somo ohonno (それほど長くない間)

**iruska**イルシカ【自動詞】**腹を立てる、怒る**。(他*ruska*)：nep ka an=ruska (何かに腹を立てる)

**isam**イサム【自動詞】**ない、いない、なくなる、いなくなる、亡くなる**。(反*an, okay*)：katu sak, tum sak (姿がない、体がない)

**itak**イタク【自動詞】**話す、語る**。：nep ka ye (何か言う)：【名詞】**言葉、話**。：an=ye p (言われたこと)

**itanki**イタンキ【名詞】**お椀**。：anep an=oma p (食べ物入れるもの)

**itura**イトウラ【自動詞】**お供する、付いて行く**。：nen ka an=tura (誰かに付いていく)

**itomunpuyar**イトムンプヤㇿ【名詞】**中窓**。：cise tumu ta an puyar (家の中程にある窓)

**iwanke**イワンケ【自動詞】**元気である、元気になる**。：tote=an (元気である)

**iyaykipte**イヤイキッテ【自動詞】**危ない**。：【間投詞】**危ない**。：samake ta oka=an yakun piroma=an, arka=an, ray=an kotom an (～の近くにいると怪我をしたり、病気になったり、死んだりしそうである)

**iyayraykere**イヤイライケレ【間投詞】**どうもありがとうございます**。**iyoir**イヨイキㇿ【名詞】**宝壇**。：or ta sintoko okay hi (宝器があるところ)

**iyotta**イヨッタ【副詞】**一番、最も**。：nep akkari tunas no (何よりも早く)

k=ク【人称接辞】(**沙流・鶴川・千歳方言**) [+動詞] **私(が～する)**。旭川のku=に相当。：[+名詞] **私(の～)**。旭川のku=に相当。

**ka**カ【副詞】**～も**。：[疑問代名詞+] **～か**。：ne yakka (～でも), he (か), ya (か)

**ka**カ【名詞】**紐、糸**。：tus neno tanne p, akkari ane p (紐のように長いもの、それより細いもの)

**kamiasi**カミアシ【名詞】**化け物**。：wen kamuy (悪い神)

**kampi**カムピ【名詞】**手紙、(=kampinuye) 勉強**。：ni or wa an=kar kapar pe (木から作られる薄いもの), kurkaske ta nep ka an=nuye (表面に何かを書くもの)

**kamuy**カムイ【名詞】**神**。：=kimun kamuy**熊**。：<形容詞的に用いて> 尊い、立派な、非常に優れた。：aynu ka somo ne utar (人間でない者たち)：eper (熊)：[+ re] pase ([+名詞] 尊い)

**Kamuykotan**カムイコタン【地名】**神居古潭(カムイコタン)**。石狩川の中流域と上流域を隔てる渓谷。近代に至るまで有名な交通の難所の一つで、事故が後を絶たなかった。旭川まで鉄道が通じてから昭和40年代までは同名の駅があったが、新線建設で線路はトンネルを抜けることになったため廃駅となった。駅舎は復元されており、旧国道から駅跡へは神居大橋を渡らねばならない。新国道はトンネルを抜けるため、旧道を回らなければ神居大橋を見ることは出来ない。

**kamuynomi**カムイノミ【自動詞】**神に祈る**。：【名詞】**神への祈り**。：kamuy an=koonkami (神に挨拶する)

**kane**カネ【接続助詞】[文・動詞+] (**～し**) **て、(～し) ながら、[副詞+] ～に**。：wa (～して), kor (～しながら)

**kani**カニ【代名詞】(**沙流・鶴川・千歳方言**) **私**。旭川方言では、kuani。

**kar**カㇿ【他動詞】**～を作る、～をする**。：monrayke=an wa nep ka an=ante (努力して何かを現れさせる)：(草木の枝から)を摘む・採る：nitek munnetopa or wa (usa hat usa kutci)

an=uk (枝、茎から～を採る)

**karikari**カリカリ【折り返し要素】「くるくる、回る回る」のように聞こえるが意味未詳。

**kasinukar**カシヌカㇿ【他動詞】**～を見守る**。(類*koinkar*)：an=epunkine (～を見守る)

**kasuy**カスイ【他動詞】**～を助ける、～を手伝う**。：ka opasi, kasi oyki (～を助ける)

**kasuy**カスイ【助動詞】(**～し**) **過ぎる**。：eikos (kane) (あまりに～過ぎる)

**katkemat**カツケマツ【名詞】**奥さん、婦人**。(反*nispa*)：hoku kor mat (夫を持つ女性)

**katu**カトㇿ【形式名詞】**姿、様子**。：siri (様子)

**kay**カイ【副詞】(**釧路・白糖方言**) **～も**。：[疑問代名詞+] ~か。

**kaykay**カイカイ【折り返し要素】「折れ波」、「折れる折れる」、「負ぶう負ぶう」などのように聞こえるが意味未詳。

**kemeiki**ケメイキ【自動詞】**針仕事をする**。：【名詞】**針仕事**。：itese, ikarkar (刺繍する)

**kenas**ケナシ【名詞】**林、森**。：nitay (林)

**kera**ケラ【名詞】**味**。ipe=an hi ta parunpe ka ta ene humas humi (食べる時舌の上でする感じ)

**keraan**ケラアン【自動詞】**美味しい**。：kera pirka (味が良い)

**keray**ケライ【副詞】[文+keray kusuの形で] (**～する・した**) **おかげで**。：[iki keray kusu] ene kiroroan hi iki kusu (嬉しいことに～ので)

**kespa**ケンパ【名詞・副詞】**毎年**。：hoski an pa ka, tanpa ka, oyapa ka (去年も、今年も、来年も)

**kesto**ケスト【名詞・副詞】**毎日**。：[kesto kestoの形で] 来る日も来る日も。：numan ka, tanto ka, nisatta ka (昨日も、今日も、明日も)

**ki**キ【他動詞】**～をする**。(自*iki*；類*kar*)：[動詞句+] (**～**) **する**。：nep ka an=ki (何かをする)、nep ka moymoyke an=kar (何か動きをする)

**kisa**キサ【名詞】**汽車、列車**。：kani ru ka kus anop (鉄の道を通る乗り物)

**kisaeraticise**キサエラツキチセ【名詞】**駅、駅舎**。：or ta kisa ratki wa an=o, or wa ratki=an hi (汽車が止まり、人が乗り降りするところ)

**kisaru**キサル【名詞】**線路、鉄路**。：kisa kus ru oma tanne noka, kani ani an=nuye noka (汽車の通る道にある長い線、鉄で描かれた線)

**koapkas**コアッカシ【他動詞】**～へ歩いて行く、～を出かける**。：ekota apkas, ekota oman (～へ行く)

**koetunankar**コエトゥナンカㇿ【他動詞?】不明。

**koinkar**コインカㇿ【他動詞】**～を見守る**。(類*kasnukar*)：an=epunkine (～を見守る)

**komni**コムニ【名詞】**榎(ナラ)の木、柏(カシワ)の木**。：sinean ni (ある木)

**kopan**コパン【他動詞】**～を嫌う、～を避けたがる**。(類*etoranne, kiumven*)：samake ta isam=an no oka=an rusuy (～の側にいないでいたい)

**kor**コロ【接続助詞】[文・動詞+] (**～する**) **と、(～した) ところ**。：hike, awa (～したところ)

**kor**コロ【他動詞】**～が～を持っている、～に～がある**。(複他*kore*)：[**～kor…の形で**] **～の…**。：[nep<sup>1</sup> nep<sup>2</sup>+] [何か<sup>1</sup>] が [何か<sup>2</sup>] を持っている、[何か<sup>2</sup>] が [何か<sup>1</sup>] にある。(反*sak*)：[nep<sup>1</sup> nep<sup>2</sup>+] nep ka<sup>2</sup> nep ka<sup>1</sup> or ta an ([何か<sup>2</sup>] が [何か<sup>1</sup>] にある。)

**kor**コロ【接続助詞】[文・動詞+] (**～し**) **ながら・つつ**。：[動詞 kor an/okayの形で] **～している(最中である)**。(反 動 *wa an*)：kane (～の途上)

**kore**コレ【他動詞】[二重目的語+] **～が～に～を与える**。(他 *kor*；複*korpare*)：[nep<sup>1</sup> nep<sup>2</sup> nep<sup>3</sup>+] [何か<sup>1</sup>] が [何か<sup>2</sup>] に [何か<sup>3</sup>] を与える。(反*sak*)：[nep<sup>1</sup> nep<sup>2</sup> nep<sup>3</sup>+] nep ka<sup>2</sup> nep ka<sup>3</sup> kor kuni nep ka<sup>1</sup> iki ([何か<sup>2</sup>] が [何か<sup>3</sup>] を持つように [何か<sup>1</sup>] する。)：[動詞 wa (人称接辞)+] ~に (～して) あげる、～に (～して) くれる。：an=ki kor an=kasuy (～しながら～を助ける)

**korka**コロカ【接続助詞】(**～する・した**) **けれども**。：[iki +] iki p

ne yakka (～するのだとしても)

**korkay**コロカイ【接続助詞】(**釧路・白糖方言**) (**～する・した**) **けれども**。：(Kusuri un kur Sirarka un kur iporse) korka (～する・した) けれども

**korpare**コロバレ【他動詞】[二重目的語+] **～が～に～を与える**。(単 *kore*)：[nep<sup>1</sup> nep<sup>2</sup> nep<sup>3</sup>+] [何か<sup>1</sup>] が [何か<sup>2</sup>] に [何か<sup>3</sup>] を与える。：[i=korpare ya(n)の形で] ~して下さい。：[nep<sup>1</sup> nep<sup>2</sup> nep<sup>3</sup>+] nep ka<sup>2</sup> nep ka<sup>3</sup> kor kuni nep ka<sup>1</sup> iki ([何か<sup>2</sup>] が [何か<sup>3</sup>] を持つように [何か<sup>1</sup>] する。)：[動詞 wa (人称接辞)+] **～に (～して) あげる、～に (～して) くれる**。：an=ki kor an=kasuy (～しながら～を助ける)

**kotan**コタン【場所名詞】**村、集落、町**。：or ta aynu cise kar wa okay hi (人が家を作り住むところ)

**kotanu**コタヌ【名詞】**～の村、～の集落、～の町**。：or ta aynu cise kar wa okay hi (人が家を作り住むところ)

**kotcake**コツチャケ【場所名詞】**～の前**。：samake, an=nukar or (～の側、見えるところ)

**kotom**コトム【接続助詞】**今にも (～し) そうで、今にも (～し) そうに**。：nankor sekor yaynu=an (～するだろうと思われる)

**kotumikor**コトゥミコロ【他動詞】**～に戦いを仕掛ける、～を攻撃する**。：tura ukoiki=an (～と喧嘩する)

**koyki**コイキ【他動詞】**～を狩る**。：an=rayke (～を狩る)

**ku**=ク【人称接辞】[+動詞] **私(が～する)**、[+名詞] **私(の～)**。：itak kur iki sekor an moymoykeitak etoko us (話し手が何かするという動詞の前に付く)

**kuani**クアニ【代名詞】**私**。：itak kur ene yayrekore katu (話者が自分と呼ぶ時の呼び方)

**kuni**クニ【接続助詞】[文+] [+ye/ramu] (**～する・しよう**) **と(言う・思う)**：yak pirka (～するとよい)

**kunne**クンネ【名詞】**夜**。：hotke=an kuni hi okake (床に就く時間より後)

**kunnano**クンナノ【名詞】**朝**。：sirpeker okake, tokam etoko (夜明けの後、昼の前)

**kur**クル【形式名詞】[動詞・文+] (**～する・した**) **者、(～する・した) 人**。：pe (～するもの)

**kus**クㇿ【他動詞】**～を通る**。：peka paye=an (～を通る)

**kusne**クスネ【助動詞】[動詞+] **きつと～するつもりだ、～することになっている**。：[iki +] sunkesakno iki=an nankor (きつと～するつもり・だろう)

**kusu**クス【接続助詞】**～なので、～だから**。：[節+] [～する・した] ので、[～する・した] から。：[iki +] iki p an wa (～したことがあって)

**Kusuri**クスリ【地名】**釧路、釧路川筋**。：yau mosir ka ta epera an poro kotan (北海道の東にある大きな町)

**mat**マツ【名詞】**妻、女**。(反*nispa*)：hoku kor mat (夫を持つ女性)

**mata**マタ【名詞】**冬**。：mata pa 冬の年。：upas as hi (雪の降る時)

**mataki**マタキ【名詞】**～の妹**。：pon matne irwaki (～の年下の女兄弟)

**mici**ミチ【名詞】(**沙流川中・上流方言**) **お父さん**。：(Sisirmuka peni un kur iporse) hanpe

**mokor**モコロ【自動詞】**寝る、眠る**。：hotke=an wa cinita usa an=ki (横になって夢を見るなどする)

**mosem**モセム【名詞】**物置**。：or ta apa an pon cise (玄関のある小さな家)

**mosir**モシリ【名詞】**世界、国**。：[名詞+] **～界**。：aynu ne ciki kamuy ne ciki or ta okay hi (人間や神が住むところ)

**mosmano**モシマン【副詞】**黙って**。：hawesakno (黙って)

**mukkur**ムックル【名詞】**口琴、ムックリ**。：~rekte ムックリを鳴らす。：an=paro samake ta an=rekte p (口の側で鳴らすもの)

**mun**ムン【名詞】**草、ごみ**。：kina (草)

**muy sapte**ムイサツテ【自動詞】**掃除をする**。：mun an=sapte (ごみを掃く)

**na**ナ【副詞】**まだ、もう(～個)**。：moyre kane (遅く)

**na**ナ【文末詞】[文+] **～よ、～ぞ**。：an=epakasnu, an=pawetenke hi ta iyotta osi an=ye itak (教えたり指図したりする時に最後に言われる言葉)

**nani**ナニ【副詞】**すぐ、まもなく、[nani ponkoの形で] 危うく?**



**るところであった**。: moyre somo ki no (遅れることなく)

**nankor**ナンコロ【自動詞】[動詞+] **～するつもりだ、～するだろう**。: kunak itak kur ramu (と話者が思う)

**ne**ネ【他動詞】**～が～である、～が～になる**。: [nep<sup>1</sup> nep<sup>2</sup>+] [何か<sup>1</sup>] が [何か<sup>2</sup>] である、[何か<sup>1</sup>] が [何か<sup>2</sup>] になる :toanpe pu neあれは倉庫だ。: [nep<sup>1</sup> nep<sup>2</sup>+] nepka<sup>1</sup> newa nepka<sup>2</sup> sinep ne, nepka<sup>1</sup> nepka<sup>2</sup> ne yaykar ([何か<sup>1</sup>何か<sup>2</sup>+] 何か<sup>1</sup>と何か<sup>2</sup>は同じだ、何か<sup>1</sup>が自分を何か<sup>2</sup>にする)

**ne**ネ【形容詞】**その。既に前の文脈で表現された**。: hoski no an=ye (前に言われた)

**ne**ネ【助詞】**～へ、～に**。(類*ene*) : [場所名詞・位置名詞+] ~へ、(移動先を表して) ~に。: ekota (～へ)

**nean**ネアン【形容詞】**その～。既に前の文脈で表現された～**。: hoski no an=ye (前に言われた)

**neanpe**ネアンペ【代名詞】**それ。既に前の文脈で表現されたもの**。: hoski no an=ye p (前に言われたもの)

**nekon**ネコン【副詞】**どう、どのように**。: [nekon anの形で] どんな、どのような。: nep neno (どのように)

**nen**ネン【名詞】**だれ、だれか**。: nekon an kur (どんな人)

**nenno**ネノ【副詞・助詞】**そのように、～のように**。: [単独で用いられて] (前で言われたことを指して) そのように。[名詞+] ~の ように。: [nenno anの形で] そのような、～のような。: hoski no an=ye p ye kor "taa" (既に言われたことに触れながら「こう」)

**nep**ネッ【代名詞】**何、何か**。通常は人間以外のものの素性を問う表現だが、時にnep ka [何か・何も]と同様の意味で用いられる: nep an=e rusuy nep an=kor rusuy pe isam (食べたい、欲しいものは何もない): nekon an pe (どのようなもの)

**newa**ネワ【助詞】**～と(～)**、[～newa...kaの形で] **～と...の**どちらも。: patek ka somo ne no (～だけでなく)

**ney**ネイ【代名詞】**どこ、どこか**。: [ney paknoで] いつも、いつまでも。: nekon an hi (どんな場所・時)

**nimpa**ニンパ【他動詞】**～を引っ張る**。: an=sikoeyaye (引く)

**nispa**ニシパ【名詞】**紳士、旦那**。(反*katkemat*) : icen poronno kor aynu (お金持ちの男の人)、pase kur (立派な人)

**nitay**ニタイ【名詞】**林**。: or ta ni poronno an hi (木の沢山あるところ)

**nitne**ニツネ【自動詞】**固い**。(反*riten*, *apur*;類*niste*) :somo riten (柔らかくない)

**nitnekamuy**ニツネカムイ【名詞】**ニチネカムイ、ニツネカムイ**。悪神。: wen kamuy (悪い神)

**no**ノ【副詞語尾】[自動詞+] (副詞化する。) **～に、～く、～て**。: [副詞・助詞] 口調を整える。: ruwe ne kor (～であり)

**nomi**ノミ【他動詞】**～に祈る、～を祀る、～を拜む**。: kamuy an=koonkami (神に挨拶する)

**noski**ノスキ【場所名詞】**～の中央、～の真ん中**。:pa kes or wa tuyma hi (端から遠いところ)

**noyne**ノイネ【接続助詞】**(～し) そうで、(～する) ようで**。: kotom (今にも(～し) そうで、今にも(～し) そうに。)

**nukar**ヌカラ【他動詞】**～を見る**。(他*inkar*) : ekota inkar, sikkuste (～に目を遣る、～に目を通す)

**num**ヌム【名詞】**粒**。: pon sikarip (小さな丸いもの)

**numan**ヌマン【名詞・副詞】**昨日**。(関*kunnano*, *tokam*, *kunne*) : tanto etoko ta ek to (今日の前に来た日)

**numi**ヌミ【名詞】**～の粒**。: pon sikarip (小さな丸いもの)

**numkar**ヌムカラ【自動詞】**殻を取る**。: usa pekanpe usa an pe or wa kap uska (菱の実などから皮をなくす)

**nupuri**ヌプリ【名詞】**山**。(類*sir*, *kim*) :nupurpe kor pe oma sir (霊力持つものがある山)

**nu**ヌ【他動詞】**～を聞く、～に耳を傾ける**。(自*inu*) : ekota an=kisara an=kiru (～に耳を向ける)

**oho**オホ【自動詞】**深い**。(反*ohak*; 類*rawne*) :somo ohak (浅くない)

**oka**オカ【自動詞】**=okay**

**okari**オカリ【他動詞】**～を回る**。:【助詞】 **～の周りに**。: piskani ta (～の周りで)

**okay**オカイ【自動詞】**ある、いる、暮らす、あらわれる**。(反*isam*;単*an*) : katu kor, tum kor (姿を持つ、体を持つ)

**okere**オケレ【他動詞】**～を終える**、(生き物)を滅ぼす。: [動詞 wa okereの形で] **(～し) 終える**。:【自動詞】 **(～し) 終える、すっか(～し) てしまう**。:nep ka an=ki wa kese pakno iki=an (何かをして終わりまでやる)

**oman**オマン【自動詞】(単数の人・ものが) **行く**。話し手と聞き手のいる場所から遠ざかる移動をする。(複*paye*): or ta itak kur newa inu kur okay hi wa no tuyma (話し手と聞き手のいるところから遠くなる)

**ona**オナ【名詞】《文語体》**父**。: hanpe (お父さん)

**onaha**オナハ【名詞】《文語体》**(～の) 父**。: hanpe (お父さん)

**onkami**オンカミ【自動詞】**拝礼する、挨拶する**。: ierankarap=an (挨拶する)

**onuman**オヌマン【名詞】**夕方**。:peker chup ahun okake, hotke=an etoko (太陽が沈んだ後、寝る前)

**onunposo**オヌンポソ【自動詞】**生き延びる**。(反*ray*;類*siknu*) :somo ray no an (死なずにいる)

**onupuriposoru**オヌプリポソル【名詞】**トンネル**。:nupuri oske kus ru (山の中を通る道)

**opitta**オピッタ【副詞】**全て、みんな**。:tanpe ka taanpe ka nep ne yakka (これも、あれも、どれも)

**oputuytekka**オプトウイテッカ【他動詞】**～を突き落とす**。: otetterke (蹴り落とす)

**or**オロ【位置名詞】**ところ**。: [名詞・人称接辞+] **(～の) ところ**。: hi (ところ)

**orowa**オロワ【副詞】=orowano **それから、それで**。:neanpe ne ruwe ne kor (そのようであって)

**orowaciki**オロワチキ【副詞】**どおりで、なるほど、どうやら**。: pirkano an=eraman hi ta an=ye itak (良く分かった時に言う言葉)

**orowano**オロワノ【副詞】**それから、それで**。:neanpe ne ruwe ne kor (そのようであって)

**osison**オシソン【場所名詞】**右座、右側**。:siso (右座)

**oske**オシケ【場所名詞】**その中、～の中**。:onnay, (そこに向かいながら)

**Otasut**オタスツ【地名】**オタスツ**。:ney ta ka yaunmosir ka ta an hi (どこか北海道にある場所)

**otcike**オツッケ【名詞】**お膳、お盆**。: itanki usa an=ama ita (お椀などを置く板)

**otcina**オツचना【名詞】**幼子**。:ponpe (子供)

**oya**オヤ【形容詞】**別の、よその**。: soy ta an (外にある)

**p**プ【形式名詞】[動詞・文+] **(～する・した) もの、(～する・した) こと**。: hi (こと)、nep ka (何か) :【接続助詞】《口語体》(～する・した) が、(～する・した) のに。: korka (～する・したのに): 母音で終わる動詞句に付く形。子音で終わる動詞句に付く形は-pe。

**pa**パ【場所名詞】**年、歳**。:tup ikasma wan cup (12ヶ月)

**paerupsi**パエルプシ【名詞】**～の枕元**。:eninuype sama (～の枕の側)

**pakno**パクノ【副詞・助詞】**それまで、それほど、～まで、～ほど**。: kosirepa wa (～に達して)

**Paramoy**パラモイ【地名】**パラモイ**。「広い入り江」程度の意味。神居古潭に掛かる神居大橋の下流側にある深み。

**pase**パセ【自動詞】**重い、重要な、厳かな、尊い**。:somo kosne (軽くない) , an=eyam (大事な)

**patek**パテッ【副詞】**～ばかり、～だけ**。:mosma okay pe isam no (他のものは無く)

**paye**パイエ【自動詞】(複数の人・ものが) **行く**。話し手と聞き手のいる場所から遠ざかる移動をする。(単*oman*): or ta itak kur newa inu kur okay hi wa no tuyma (話し手と聞き手のいるところから遠くなる)

**paykar**パイカラ【名詞】**春**。:upas ru hi (雪の解ける時)

**pe**ペ【形式名詞】[動詞・文+] **(～する・した) もの、(～する・した) こと**。: hi (こと)、nep ka (何か) :【接続助詞】《口語体》(～する・した) が、(～する・した) のに。: korka (～する・したのに): 子音で終わる動詞句に付く形。母音で終わる動詞句に付く形は-p。

**pekanpe**ペカンペ【名詞】**菱の実**。:cuk an kor wakka ka ta an=uk ipe (秋になると水の表面で取れる食べ物)

**pencay**ペンチャイ【名詞】**弁財船、貨物船**。(類*cip*) : cihoki an=omare cip, poro cip (品物を積む船、大きな船)

**peni**ペニ【場所名詞】**(～の) 川上**。:or wa peturasi=an kor an hi (そこから川に沿って上とあるところ)

**peray**ペライ【自動詞】**釣りをする**。:cepkoyki (魚を採る)

**petcamun**ペツチャムン【形容詞】**川村の、川端の**。:(< *pet-sam-un* 川・のそば・にいる): pet sam ta an (川のそばに居る)

**pewre**ペウレ【自動詞】**若い**。:somo onne wa an (年を取っていない)

**pirka**ピリカ【自動詞】**良い**。: 良い、綺麗である、元気である。: an=eramasuy (好ましい)

**pirkano**ピリカノ【副詞】**良く、しっかりと、じっくりと**。(cf. pirka) : wenko no (良く)

**piskani**ピシカニ【場所名詞】**(～の) 周り**。:okari hi (の周りのところ)

**pon**ボン【自動詞】**小さい、小さくなる**。(反*poro*):somo poro (大きくない)

**ponko**ポンコ【副詞】[**nani ponkoの形で**] **危うく～するところだった**。:naani (もう少しで～するところだった)

**ponno**ボンノ【副詞】**少し**。(反*poro*) :somo poronno (多くない)

**poro**ポロ【自動詞】**大きい、大きくなる**。:somo poro (小さくない) , rupne (大きい、大きくなる)

**poronno**ポロンノ【副詞】**多く**。:somo ponno (小さくない) , rupne (大きい、大きくなる)

**pu**プ【名詞】**倉庫**。:onnay ta usa okay pe an=omare pon cise, ciekunip usa an pe an=anu hi (中にいろいろなものを入れる小さな家、食べ物などを置くところ)

**punpuyar**ポンプヤァ【名詞】**小窓**。:iyotta epas ta an puyar (一番西にある窓)

**puy**プイ【名詞】**ヤチブキの根**。:sinean kina sinrici (ある植物の根)

**puyarorotpe**プヤロロッパ【名詞】**(窓の) 簾(すだれ)**。:puyar or ta an=otte citarpe (窓にかけた菓座)

**ramma**ランマ【名詞・副詞】**いつも**。:hempara ne yakka (いつでも)

**rankarap**ランカラッ【自動詞】**挨拶する**。:onakmi=an neno an pe an=ki (拝礼のようなことをする)

**rataskep**ラタシッケ【名詞】**山の幸、ご馳走**。(類*ipe,anep*) :pirka ipe (立派な食事)

**ratci**ラッチ【自動詞】**穏やかである、ゆっくりである、静かである**。:somo tunas (早くない)、humisak (おとなしい)

**ray**ライ【自動詞】**死ぬ**。(反*siknu*; 他*rayke*, *ronnu*)

**rayke**ライケ【他動詞】**～を殺す**。(自*ray*; 複*ronnu*):ray kuni iki=an (～が死ぬようにする)

**re, rehe**レ、レヘ【名詞】**(～の) 名前**。:nen ka an=hotuypakar hi ta an=ye itak (誰かを呼ぶ時に言う言葉)

**rean**レアン【他動詞】[名詞sekor+] **～が(～と) 呼ばれる**。: rehe ...ne (名前は～だ)

**rekor**レコロ【自動詞】[名詞sekor+] **～が(～と) 呼ばれる**。: rehe ...ne (名前は～だ)

**rekore**レコレ【他動詞】[名詞sekor+] **～を(～と) 名付ける、～を(～と) 呼ぶ**。: re an kuni iki=an (名前があるようにする)

**rekte**レクテ【他動詞】**～を鳴らす**。:humi an=nuyar (～の音を聞かせる)

**rerko**レルコ【名詞】**日**。:tokam rerko 昼の日。:konne rerko 夜の日。:to (日)

**riwka**リウカ【名詞】**橋**。話者によってはruykaルイカと発音する場合もある。同じような例は、puyarとpuray (窓) などにも見られる。:pet kama ru (川をまたぎ越す道)

**ro**ロ【文末詞】[文+] **(～し) よう、(～し) ましょう**。(類*rok*) : inu kur turano iki hi ta itak kur ye p iyotta iosi ek itak (聞き手と共にする時に話し手が言う言葉の最後にくる言葉)

**rok**ロク【助動詞】**(～し) た**。(単*a*): wa an (～してしまっている)

**rok**ロク【文末詞】[文+] **(～し) よう、(～し) ましょう**。(類*ro*) : inu kur turano iki hi ta itak kur ye p iyotta iosi ek itak (聞き手と共にする時に話し手が言う言葉の最後にくる言葉)

**rorunpuyar**ロルンプヤァ【名詞】**東窓・神窓**。:epera an puyar (東にある窓)

**rorunso**ロルインソ・ロルンソ【名詞】**上座**。(しばしば/rorunso/と発音)。:epera an so (東にある座)

**ru**ル【形式名詞】[文+] (知識から導かれた判断をさして) **(～する・した) こと・の**。(関*haw(e)*, *hum(i)*, *sir(i)*): [文末詞的に用いられて] (～する・した) の。: an=eraman pe (知っていること)

**ruska**ルシカ【他動詞】**～に腹を立てる、～に怒る**。(自*iruska*) : an kusu iruska=an (～があるために怒る)

**rusuy**ルスイ【助動詞】**～したい**。: [動詞句+] [～し] たい、[～し] たがる。: [iki+] iki=an hi an=eramasuy (～することが好ましく思う)

**ruwe**ルウエ【形式名詞】[文+] **(～する・した) の**。: [文末詞的に用いられて] **(～する・した) の**。: an=eraman pe (知っていること)

**ruyanpe**ルヤンペ【名詞】**雨**。「雨」の意味でaptoを用いる方言もあるが、旭川でaptoは寧ろ「嵐」となることが多いらしい。: nis kotor wa wakka rap (空から水が降る)

**sa**サ【名詞】**(～の) 姉**。: pa poro matne irwaki (～の年上の女兄弟)

**sak**サク【他動詞】**～が～を持たない、～に～がない**。(反*kor*) : [nep<sup>1</sup> nep<sup>2</sup>+] [何か<sup>1</sup>] が [何か<sup>2</sup>] を持たない、[何か<sup>2</sup>] が [何か<sup>1</sup>] にない。

**sak**サク【名詞】**夏**。:sak pa 夏の年。:iyotta sirsesek hi (最も暑い時)

**Samayekur**サマイエクル【名詞】**サマイクル**、サマイエクル。他の地方ではサマユンクル(Samayunkur)とも言う。人間の始祖となる巨大な神で、国造りの神とも呼ばれる。旭川では通常伝説の主人公で、それに対してオキクルミが悪い役回りをする。北海道南西方言ではこの関係が逆になる。

**sampewen**サンペウエン【自動詞】**具合が悪い、具合が悪くなる**。: an=penramu an=honi arka (胸やお腹が痛くなる)

**sankenay**サンケンナイ【場所名詞】大沢、下手の沢。:panike ta an nay (川下側の沢)

**sap**サッ【自動詞】(川下へ) 下る、(山から野へ) 出る、(浜へ) 下りる。(類*ran*, *asin*) :panake ne paye=an, nupuri or wa nup or ene paye=an, pis or ene paye=an (川下へ行く、山から野へ行く、浜へ行く)

**sattek**サツテッ【自動詞】**痩せる**。(反*kamus*) :kamsak (肉がない)

**sayo**サヨ【名詞】**粥**。:amam wakka an=omare wa an=suwe p (米を水に入れて炊いたもの)

**sekor**セコロ【助詞】**～と**。: [語、句、文+] ~と (言う、思う)。: yak, ari (～と)

**sihumnuyar**シフムヌヤァ【自動詞】(自分の来訪を知らせるために) **音を立てる**。:ek=an hi an=eramante kusu humasi (来たことを知らせるために音を立てる)

**sikaopaste**シカオパシテ【他動詞】**～に助けを求める**。: un=kaopas sekor itak (助けてと言う)

**Sikeuspa**シケウシパ【地名】**シケウシパ**。「荷を背負うところ」程度の意味。神居古潭に掛かる神居大橋の下流側、石狩川左岸の岩臺のあたり。

**siknu**シクヌ【自動詞】**生きる、生き延びる**。(反*ray*; 他*siknuka*) :somo ray=an no okay=an (死なずにいる)

**siknuka**シクヌカ【他動詞】**～を生かす、～を生き延びさせる**。(反*rayke*, *ronnu*; 自*siknu*, *onumposo*) :somo an=rayke no an=anu (殺さずに置く)

**sine**シネ【形容詞】**一つの～**。: ipiski=an yak hoski ek (数えると最初に来る)

**sinean**シネアン【形容詞】**ある～**。:nep ka an (何かの、いずれかの)

**sineanta**シネアンタ【名詞・副詞】**ある時、ある日**。:sienan to ta (ある日に)

**sinewe**シネウエ【自動詞】**訪問する**。:unukar kusu oman (会いに行く)

**sinki**シンキ【自動詞】**疲れる、疲れている**。:monrayke=an kasuy wa nep ka an=eaykap (働き過ぎて何も出来ない)

**sintoko**シントコ【名詞】**宝器・米びつ**。: amam an=omare p (米を入れるもの)

**sinuma**シヌマ【代名詞】**私**。: itak kur ene an=rekore katu (話し手の呼び方)

**sir**シッ【形式名詞】**目で見た様子、状況、天気**、[文+siriの形で**接続助詞的に**] **～するようで**。:【名詞】大地、(地形としての) 山。:



ene an=nukar katu (見える姿)

**siran** シラン【自動詞】[文 (kotom)+] **～のようだ**。: siri an=nukar (～な様子が見える)

**siri** シリ【形式名詞】**目で見た様子、状況、天気**、[文+] <様子をみて判断して> **(～する・した) ねえ**、**[文+siriの形で接続助詞的に] ～するようで**。: 【名詞】大地、(地形としての) 山。: ene an=nukar katu (見える姿)

**sirkanuye** シリカヌイエ【自動詞】**刀の鞘の模様を彫る**。(類 emuskanuye); sirka an=nuye (刀の鞘を彫る)

**sirun** シルン【形容詞】**醜い**。: siri wen, katu wen (姿が悪い)

**sisam** シサム【名詞】(アイヌ人に対して) **和人、近くの外国人**。(反 *aynu*): hure sisam口シア人; tonokotan or wa arki utar (本州から来たものたち), repun kur (外国人)

**Sisirmuka** シシムカ【地名】**沙流川筋**。: Sar kotan (沙流川流域の集落のあるところ), yayunmosir ka ta ekusun an (北海道の南にある)

**siso** シソ【名詞】**右座**。rorunsoに視点を置いて右側。: emakas an so (北にある座)

**sitokere** シトケレ【折り返し要素】「団子が終わる」程度に聞こえるが意味未詳。

**sitoma** シトマ【他動詞】**～を恐れる、～を怖がる**。(自 *isitoma*): an=homa sekor yaynu=an (～が恐ろしいと思う)

**siyeye** シイエイエ【自動詞】**病気である、病気になる**。: 【名詞】病気。: arka=an (病気である、病気になる)

**somo** ソモ【副詞】[+動詞] **[～し] ない**。: [方言ノート] 他の多くの方言でもsomoが用いられるが、静内や三石などでは*henne*, *homo*が用いられるらしい。: [+iki] iki hi ka isam ([+そうである・そうする] そうであること・そうすることがない)

**somo** ソモ【間投詞】**いいえ、違います**。: somo ese=an hi ta an=ye itak (承諾しない時に言う言葉)

**sonno** ソンノ【副詞】**本当に、とても**。: kasuy (～すぎる)

**sonnoka** ソンノカ【副詞】**本当に、とても**。: kasuy (～すぎる)

**soy** ソイ【場所名詞】**外**。: oske somo ne hi (中ではないところ)

**suke** スケ【自動詞】**料理をする**。: 【名詞】料理。: ipe etoko an=oyki (食事の準備をする)

**sukup** スクフ【自動詞】**育つ、暮らす**。: okay=an (暮らす)

**supop** スポフ【名詞】箱。伝統的には、刀、宝物など大切なものを入れるのに用いたものらしい。*suop* スオフは「かご」と訳されることが多いが、同じ語である可能性が高い。: emus, ikor neno an pe an=o p. *suop* ka sine itak ne humas

**suwe** スウェ【他動詞】**～を煮る、～を炊く**。: su oske ipe wakka an=omare wa suke=an (鍋に食べ物と水を入れて料理する)

**ta** タ【助詞】[場所名詞・位置名詞+] **～に、～で**。: oma wa (～にあつて、～にいて)

**ta** タ【他動詞】(水) **を汲む、(地面から) ～を掘る、(水面から) ～を取る**。: sir wakka kaske wa uk (地面、水面から～を取る)

**taan** タアン【形容詞】**その、あの**。話し手と聞き手のいる場所(「*te*テ」や「*teor*テオロ」で指し示される場所)の外にある。(toanとの対比で) 比較的近いと話し手が思う。(反 *tan*, *toan*): “te, teor” soyke ta an, or ta itak kur inu kur tura an hi soyke ta an pe (*taanpe* akkari hankeno an) (「ここ」の外にある、話し手と聞き手のいるところの外にある [toanよりも近くにある])

**taani** タアニ【場所名詞】(< *taan hi*) **あそこ**。(類): te akkari tuyma hi (ここよりも遠い場所)

**taanpe** タアンペ【代名詞】**それ、あれ**。話し手と聞き手のいる場所(「*te*テ」や「*teor*テオロ」で指し示される場所)の外にあるもの。(toanpeとの対比で) 比較的近いと話し手が思うもの。(関*taanpe*, *taanpe*): “te, teor” soyke ta an pe, or ta itak kur inu kur tura an hi soyke ta an pe (toanpe akkari hankeno an pe) (「ここ」の外にあるもの、話し手と聞き手のいるところの外にあるもの [taanよりも近くにあるもの])

**tametuye** タメトウエイ【他動詞】**～を刀で斬る、～を退治する**。: tam ani an=rayke (刀で殺す)

**tan** タン【形容詞】**この**。話し手と聞き手のいる場所(「*te*テ」や「*teor*テオロ」で指し示される場所)の中にある。(反 *taan,toan*): “te, teor” ta an, or ta itak kur inu kur tura an hi ta an (「ここ」にある、話し手と聞き手のいるところにある)

**tane** タネ【副詞】**今、もう、いますぐ**。: itak=an hi, nean hi ta

(話している時、その時に)

**tanene** タネネ【折り返し要素】「今、このように」程度に聞こえるが意味未詳。

**tanpa** タンパ【名詞・副詞】**今年**。: tanto oma pa (今日が入っている年)

**tanpe** タンペ【代名詞】**これ**。話し手と聞き手のいる場所(「*te*テ」や「*teor*テオロ」で指し示される場所)の中にあるもの。(反 *taanpe*, *taanpe*): “te, teor” ta an pe, or ta itak kur inu kur tura an hi ta an pe (「ここ」にあるもの、話し手と聞き手のいるところにあるもの)

**tanto** タント【名詞・副詞】**今日**。: tane an to (今ある日)

**tatni** タツニ【名詞】**カンビ、樺の木**。: sinean ni (ある木)

**te** テ【場所名詞】**ここ**。: 話し手のいる場所。: or ta itak kur an hi

**teeta** テエタ【名詞・副詞】**昔**。(反 *tane*): husko toy (古い昔)

**teksama** テッサマ【位置名詞】(～の) **すぐ側、(～の) 手もと**。: an=temtem easkay hi (～が手探り出来るところ)

**temnikor** テムニコロ【名詞】**腕の中**。: an=tapsutu uturke (腕の間)

**to** ト【名詞】**沼、湖**。: wakka uekarpa wa oma hi (水が集まっているところ)

**toan** トアン【形容詞】**あの**。話し手と聞き手のいる場所(「*te*テ」や「*teor*テオロ」で指し示される場所)の外にある。(toanとの対比で) 比較的遠いと話し手が思う。(反 *tan*, *taan*): “te, teor” soyke ta an ruwe ne kor tuymano an, or ta itak kur inu kur tura an hi soyke ta an ruwe ne kor tuymano an (*taanpe* akkari tuymano an) (「ここ」の外にある、話し手と聞き手のいるところの外にある [taanよりも近くにある])

**toanpe** トアンペ【代名詞】**あれ**。話し手と聞き手のいる場所(「*te*テ」や「*teor*テオロ」で指し示される場所)の外にあるもの。(taanpeとの対比で) 比較的遠いと話し手が思うもの。(反 *tanpe*, *taanpe*): “te, teor” soyke ta an ruwe ne kor tuymano an pe, or ta itak kur inu kur tura an hi soyke ta an ruwe ne kor tuymano an pe (taanpe akkari tuymano an pe) (「ここ」の外にあるもの、話し手と聞き手のいるところの外にあるもの [taanよりも遠くにあるもの])

**tokam** トカム【名詞】**昼**。: kunnano kunne uturke, peker cup ahun etoko (朝と夜の間、太陽の沈む前)

**tonokotan** トノコタン【場所名詞】**本州**。: oro ta sisam okay poyyakotan (和人の住んでいる日本)

**totek** トーテク【自動詞】**元気である**。: pirka no an=an, siyeye an=sak (元気でいる、病気ではない)

**totto** トット【名詞】**お母さん**。(反 *hanpe*): unu (母), pokor menoko (子を産んだ女性)

**tuka** トウカ【助数詞・形式名詞】**～本**。: tuy (～本)

**tun** トウン【名詞】二人。: sinen newa sinen (一人と一人)

**tura** トウラ【助詞・副詞】**～と共に、～を伴って、それ(彼・彼女・彼ら)と共に、それ(彼・彼女・彼ら)を伴って**。: 【他動詞】～を連れる、～を伴う。

**turesi** トウレンシ【名詞】(～の) **妹**。: okkay or wa an=nukar mat aki (男から見た女兄弟)。

**tuy** トウイ【助数詞・形式名詞】**～本、～切れ**。: tuka (～本)

**tuyma** トウイマ【自動詞】**遠い**。: 【名詞】**遠く**。(反 *hanke*): toanhi ta an (ずっと遠くにある)

uウ【虚辞】口調を合わせるために用いられる。

**uekarpa** ウエカヅバ【自動詞】**集まる**。(類 *uekari*, 他 *uekarire*)

**uekatayratkino** ウエカタイラッキノ【副詞】**円満に**: pirka sukup an=kor kane (達者に暮らして)

**ueoyakno** ウエオヤクノ【副詞】**互いに異なって、互いに違って**。(反 *uneno*): uneno an ka somo ki no (互いに同じではなく)

**uepirka** ウエピリカ【自動詞】**共に達者に暮らす**。: uturano pirka sukup an=kor (共に良い暮らし持つ)

ukウク【他動詞】**～を取る、～を採る**。: an=ani (手で取る), an=uekarire (集める)

**ukoitak** ウコイタク【自動詞】**話す、会話する**。: uturano itak=an (一緒に話す): 【名詞】**会話**

**ukousaraye** ウコウサライエ【他動詞】**～を分け合う**。: serke poronno an=kar wa ponno ponno an=ukouk (部分を作つて、ちよつとずつ取り合う)

**ukuran** ウクラン【名詞・副詞】**夜**。: kunne (夜)

**un** ウン【助詞】(沙流・鶴川・千歳方言) **～へ**。旭川ではene。: (Sar un kur Sikot un kur iporse) ene

**un** ウン【他動詞】**～が～に本来的にある、～が～につく**。: [nep<sup>1</sup> nep<sup>2</sup>+] [何か<sup>1</sup>] が [何か<sup>2</sup>] に本来的に存在する、[何か<sup>1</sup>] が [何か<sup>2</sup>] に生息する、[何か<sup>1</sup>] が [何か<sup>2</sup>] につく。: [nep<sup>1</sup> nep<sup>2</sup>+] ney ne yakka nepka<sup>1</sup> nepka<sup>2</sup> or ta an, nepka<sup>1</sup> anakne nepka<sup>2</sup> or ta an pe ne (いつでも何か<sup>1</sup>は何か<sup>2</sup>のどこころにある、何か<sup>1</sup>は何か<sup>2</sup>のどこころにあるものである)

**un**=ウン【人称接辞】[+他動詞] 私たち(を～する)、私たち(に～する)、【物語の中で】私(を～する)、私(に～する)。(類 i=): itak kur utar ekota iki=an sekor an moymoykeitak etoko us (話し手たちに対して何かがされるという動詞の前に付く)

**unarpe** ウナヲペ【名詞】**おばさん**。: rupne mat, huci akkari pewre mat (歳を取つた女性、お婆さんより若い女性)

**uneno** ウネノアン【副詞】**互いに似て、同じく**。(反 *ueoyakno*): uneno an ka somo ki no (互いに同じではなく)

**unu** ウヌ【名詞】《文語体》(～の) **母**。: totto (お母さん)

**unuhu** ウヌフ【名詞】《文語体》**母**。: totto (お母さん)

**upopo** ウポポ【自動詞】**歌う、踊る**。: 【名詞】**歌、踊り**。: rimse=an (踊る)

**uras** ウラシ【名詞】**ささ、熊笹**。: cise tumam cise oson ekota an=tese kina, an=ecisekar pe ene an=ye korka toy or wa etuk pe anak xhuttaƎ sekor an=ye (家の壁、屋根に編みつける草、家の材料としてはこう呼ぶが、地面に生えているものはhuttatと言う)

**ureska** ウレスカ【自動詞】**互いを育てる、共に達者に暮らす**。: uturano pirka sukup an=kor (共に良い暮らし持つ)

**uroreasi** ウロレアシ【他動詞】**～を並べる**。: usam ta an=ama (隣り合うように置く)

**utar** ウタヲ【名詞】**仲間、同族、～たち**。: [単独で時にutariの形で] 仲間、同族。[名詞+] ～たち。: sine sinrit kor pe (同じ先祖を持つ者)

**uturano** ウトゥラン【副詞】**一緒に**。: sine an hi ta okay wa (同じ場所にいて)

**wa** ワ【助詞】[位置名詞・場所名詞+] **～から**。: [普通名詞・人称接辞 or +] (～の**ところ**) **から**: (特定の表現で) ～に、～で。: soyke ene (～の外へ)

**wa** ワ【接続助詞】**～して、～してから**。: [動詞+wa anの形で] [既に～し] ている、[～し] である。: kane (～した上で)

**wa** ワ【文末詞】[文+] (～する・した) **よ**。: ramu hawke no an=ye hi ta iyotta osi an=ye itak (優しく言う時に最後に言われる言葉)

**wakka** ワッカ【名詞】**水**。: pet or ta an=ta p (川で汲むもの), pe (水)

**wano** ワノ【助詞】=wa [位置名詞・場所名詞+] **～から**。: [普通名詞・人称接辞 or +] (～の**ところ**) **から**: (特定の表現で) ～に、～で。: soyke ene (～の外へ)

**wen** ウエン【自動詞】**悪い**。(他 *wente*): 悪い、ひどい。: somo pirka (良くない)

**wenkur** ウエンクル【名詞】**貧乏人**。: ikor sak pe (財産ないもの)

**wente** ウエンテ【他動詞】**～を荒らす**。(反 *pirkare*; 自 *wen*): somo pirkakuni iki an (良くなくなるようにする)

**ya** ヤ【文末詞】**～しますか、～して下さい**。: [文+] [～し] ますか、「～して」下さい。: an=erampetek pe usa an=eramuskare p usa nen ka an=ekopis hi ta ikopis itak kes ta an=anu p (分からないこと知らないことを誰かに尋ねる時、尋ねる言葉の最後につける言葉)

**yak** ヤク【接続助詞】[文+]: +発語・認識動詞 **～と(言う・思う)**: [文 yak pirka/wenの形で] (～する) といい・いけない。

**yak, yakne, yakun** ヤク、ヤッネ、ヤクン【接続助詞】**～すると、～するなら、～したら**。: [動詞句・文+] 条件を導く。: [iki +] iki hi ta (～する時に)

**yakka** ヤッカ【接続助詞】(～する・した) **としても**。: hi anpe ne kotom an korka (～することは事実でありそうだけれども)

**yakka** ヤッカ【接続助詞】< ya ka [文+] [+erampetek/eraman] (～する・した) **か、(～する・した) かどうか(分からない・分かる)**。: [iki +] iki=an he somo iki=an he (するのかしないのか)

**yakkayki** ヤッカイキ【接続助詞】《文語体》(～する・した) としても(～する・した) とはいえ。: (釧路・白糠方言) (～する・した) としても。: (Kusuri un kur Sirarka un kur iporse) yakka (～する・した) けれども

**yakun** ヤクン【接続助詞】**～すると、～するなら、～したら**。: [動詞句・文+] 条件を導く。: [iki +] iki hi ta (～する時に)

**yan** ヤン【文末詞】[文+] **～して下さい**。: nep ka ki wa en=kore sekor itaka=an hi ta iyotta osi an=ye itak (～して下さいと言う時に最後にいう言葉)

**yanke** ヤンケ【他動詞】(船など) **を陸に揚げる、～を水から道具で採る**。: cip usa wakka or wa ya ta an=rikinte (舟などを水から陸に上げる), pet to or wa aneiwanke ani nep ka an=uk (川・沼から道具で～を採る)

**yantoe tun** ヤントエトウン【自動詞】**宿を借りる、泊めてもらう**。(反 *yantokor*; 類 *yantone*): yantone=an, an=kor cise oyake ta an cise or ta mokor=an (泊まる、自分の家の他のところにある家で寝る)

**yantokor** ヤントコロ【他動詞】**～を泊める**。: yantonekur ne an=kor (客として持つ)

**yayeisoitak** ヤイエインソイタク【自動詞】**自分について語る**。(類 *yayenyutak*): yayetuytak=an (自分について語る)

**yayetuytak** ヤイエトウイタク【自動詞】**自分について語る**。(類 *yayeisoitak*): yayeisoitak=an (自分について語る)

**yayeyam** ヤイエヤム【自動詞】**気をつける**。: yaytupare=an kuni iki=an (無事であるようにする)

**yayeyukar** ヤイエユカラ【自動詞】**自分について語る**。(類 *yayeisoitak*): yayeisoitak=an (自分について語る)

**yayrayke** ヤイライケ【自動詞】**感謝する**。: unci=ekarkar hi an=ekiroroan (してもらったことを嬉しく思う)

**yaytupare** ヤイトウパレ【自動詞】**元気である・になる、健康である・になる**。: siyeye an=sak (病気がない)

**yayunaske** ヤユナスケ【自動詞】**謝る**。: wen=an korka isittekka wa en=kore sekor itak=an (自分は悪かったが許してくれと言う)

**ye** イエ【他動詞】[文 yak +] (～と) **言う、～を言う、～に言う**。: sekor itak (～と言う)

**yup** ユフ【名詞】**兄**。: 概念としての兄。「～の兄」の意味ではyupi, yupihiが用いられる。: pa poro irwak (年上の兄弟)

**yupi, yupihi** ユピ・ユピヒ【名詞】**～の兄**。: pa poro irwaki (～の年上の兄弟)

**yupke** ユフケ【自動詞】**強い、激しい**。: ataye～ (値段が) 高い。: somo hawke (弱くない), ruy (激しい)

**yupkep** ユフケフ【名詞】**とんでもないこと**(< 激しいこと)。: an=homa p (恐ろしいこと)

**YUUKARAORI** ユーカラオリ【名詞】**優佳良織り**。木内綾氏考案の織物で、北海道観光の土産物として有名になった。アイヌの伝統文化に配慮してユーカラを優佳良と変えた。: imoka ne an=hok anoskep (土産に買われる織物)